創立 30 周年記念誌



社団法人 群馬県計量協会 環境分科会

表紙写真



株式会社不二ケミカル

会長　下山親一氏 撮影

社団法人群馬県計量協会環境分科会　創立30周年記念誌

目　　次

挨拶

社団法人群馬県計量協会環境分科会長	浅川　千佳夫	2
社団法人群馬県計量協会専務理事	笹尾　利昭	3

祝辞

群馬県計量検定所長	茂木　雅夫	4
群馬県衛生環境研究所長	小澤　邦寿	5

回想

元群馬県衛生公害研究所長	氏家　淳雄	6
元群馬県計量検定所長	佐藤　安信	9
元群馬県計量検定所長	松岡　小十郎	10
環境分科会名誉会長	吉濱　和夫	11
元環境分科会事務局	江崎　一	12
元環境分科会副会長	原　善彦	13

30周年記念式典次第　15

活動記録(あゆみ)　17

- 事業活動記録　18
- 技術委員会記録　68
- 浄化槽委員会記録　79
- 技術発表会記録　86

歴代役員等名簿　95

- 検定所長・会長等　96
- 役員　99
- 委員会　103

会則　113

表彰規程　118

会員名簿　119

資料　121

- 技術委員会資料　121
- 浄化槽委員会資料　121

あとがき　122

広告　123

ご挨拶



社団法人群馬県計量協会環境分科会長　浅川　千佳夫

社団法人群馬県計量協会環境分科会30周年を迎え、これまでの来し方を振り返り、これからの礎にしたいと思います。

当会は昭和51年に発足しました。発足時には8社であった会員が現在では24社に増えております。公害問題に始まった環境計量証明事業は、その後世の中の要請で環境保全へと変わっていき、有害物質のみならず、生活環境監視のためにも、環境計量証明事業は無くてはならないものになりました。そして近年、ダイオキシン類に代表される特定計量証明事業の創設により、ますます社会的重要性が要求されております。詳しい経緯は30周年記念誌に回想や記録として載せてありますのでぜひお目を通されますよう御案内申し上げます。

さて当会は現在、総務企画委員会、技術委員会及び浄化槽委員会の3委員会を持ち、会員各社はいずれかに属し、活動を行っております。総務企画委員会には11社が所属し、環境フェスティバル等の企画、環境白書研修会、研修見学会、北関東3県連絡会、そしてこの30周年記念事業に取り組んでおります。技術委員会には14社が所属し、毎年テーマを決めて月1回の頻度で集まっており、年度末には報告書にまとめております。浄化槽委員会には17社が所属し、関係団体との協力体制で、効率化11条検査に取り組んでおります。

近年、3委員会とも活発な動きの中で、成果を上げており、また同時に会員間の交流と合意形成に努めております。こうした中で、今年当会が30周年を迎えられたことは、ひとえに会員皆様のご理解とご協力があったればこそとの思いを強く感じているところです。そして、関係される行政の皆様をはじめ多くの方々からのあたたかいご指導があったればこそと思っております。30周年を節目とし、活動記録・会歴をまとめ、さらに会の規約を作りました。これからは社団法人群馬県計量協会の中で、環境分科会を明確に位置付け、活動を行なってまいりたいと思います。

さて、経済情勢の厳しい中において社会的要求に応えるべく、会は努力をしてまいらなければなりません。環境計量証明事業の社会的地位向上のためにも、精度管理を十分に行い適正な分析料金を設定することは重要なことです。私たちの事業は、環境の時代といわれる21世紀で基礎的なデータ（数値）を扱うものです。地味ではありますが必要不可欠なものと認識し、取り組んでまいりたいと思います。

これから、ますます当会が発展できますよう、努めてまいりたい所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

挨　拶　　～環境分科会創立30周年を迎えて～



社団法人群馬県計量協会専務理事　笹尾　利昭

社団法人群馬県計量協会環境分科会は、お陰様で創立30周年の記念すべき節目を迎えることができましたことに、会員の皆さんと共に心からお祝いしたいと思います。

これはひとえに関係行政機関を始め、会員の皆様方のご指導、ご支援の賜物であり、衷心よりお礼申し上げます。

私は、当環境分科会の発足当初から計量行政に携わり、現在は事務局で専務理事という立場でありますが、皆様方のこの30年間の活躍を目の当たりにしておりますので感激もひとしおです。

創立当時の社会情勢は、高度成長の一方で公害健康問題や自然環境破壊が、大きな社会問題となり、国、地方自治体、事業者及び国民が一体となっての対策が急務になっておりました。

そんな中、環境測定と分析結果の社会的信頼性の確保が要求されて、昭和50年3月に計量法が改正され、環境計量士の資格制度と環境計量証明事業者の登録制度等が制度化された関係で、社団法人群馬県計量協会の会員となりました。更に、環境計量証明事業者会員相互の技術の向上や行政機関への協力、その他情報の収集提供等を目的に昭和51年6月に環境分科会を創立いたしました。その中で環境測定分析に必要な技術研修等を積極的に行い、分析技術の向上と社会的信頼性の確保に多大な成果を上げております。これは一重にこの30年間目的達成のため歴代役員、会員等が大変なご尽力をして、順調に環境分科会活動を発展させることができたと感じております。

また、この30年間には平成4年の計量法の全面改正や環境法令の改正等が、社会情勢に応じて幾多ありましたが、近年は特に、環境分析の測定方法も ppm、ppb オーダーの化学物質を測定する時代から ppt、ppq という極微量物質を測定分析する時代と変化しております。

なお、現在、計量行政審議会で「新しい計量行政の方向性」について審議中であり、計量法の見直しが正式に進められております。

しかしながらいずれの時代においても、環境の状況を正確に把握するための環境測定分析は環境保全の基盤をなすものであり、その重要性が変わることはありません。

過去30年間に培われた技術、経験を基に新しい事態に適応してゆく努力を続け環境分科会が、更に発展することを念願しております。

今後も当環境分科会の事務局として、適切な情報の収集と提供等を進めて参りたいと思っておりますので皆様方の一層のご指導、ご支援をお願いいたします。

祝　辞



計量検定所長　茂木 雅夫

このたび、社団法人群馬県計量協会・環境分科会が創立３０周年を迎え、記念事業の一環として記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画された関係者の皆様に対しまして、深く敬意を表します。

環境分科会は昭和51年に発足され、土壌、水、大気中の微量物質の分析や騒音・振動の測定を行い環境対策に大きく貢献されてきました。この分析や測定などは高度な技術を要するため、会員相互の技術の研鑽や精度管理などに努められ信頼性の高いデータを提供してこられました。

また、分析技術の高度化や複雑化などに対応するため研究会、委員会を立ち上げ、調査・研究を熱心に行い環境計量証明事業の健全な発展及び文化の向上に寄与されていることは誠に意義深いものがあります。

この３０年の間、日本経済および地域経済は飛躍的な発展を遂げ、発足当時は拡大の一途を辿っていたのではないかと思います。高度成長の時代から規制緩和と大競争の時代へと大きく変わってまいりました。

環境測定の分野でも幾多の困難な問題も克服しながら、その時々の経済、社会の諸要請に応え、地域社会の安全を図るとともに、県民が安心して生活できる環境づくりに大きな役割を果たしてきたところと存じます。

貴分科会におかれましては時代に適した展開と積極的な活動により、関係諸官庁ならびに関係機関との緊密な連携のもとに、会員の経営基盤の確立と近代化に寄与するとともに、環境分析分野に大きく貢献されてこられました。

これからの時代は経済構造が大きく変化し、規制緩和、国際化、技術革新などにより新たな時代の到来が予測されます。従前の手法に加え更に迅速かつ的確な対応が求められ、なお一層ご活躍されることをご期待申し上げます。

終わりにこの記念事業を機に更なる飛躍と皆様の益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

群馬県計量協会環境分科会30周年記念誌に寄せて



群馬県衛生環境研究所長　小澤　邦寿

群馬県計量協会環境分科会が30周年を迎えられたことに、心より慶びを申し上げます。30周年記念誌の発刊に際し一言お祝いを申し述べさせていただきたく存じます。「環境」というと、昭和40年代ころの「公害」が社会問題化した時代、その後につづく「環境保護」がある種のイデオロギーとして膾炙した時代、また最近では「持続可能性（サステナビリティ）」の探求へとキーワードは変遷していますが、地球の環境を守り、いかに次世代へと受け継ぐか、根本にある考え方は変わっていないと思います。私事になりますが、わたしは平成13年に県立循環器病センターから衛生環境研究所に転任してまいりましたが、それまでは外科医をしておりまして、環境とは全く縁のない仕事に携わっていました。以来5年間、環境分野の調査や研究に関与し、また群馬県計量協会環境分科会の皆様とも交流をさせていただいて、いまは少し問題が掴めてきたところでもあり、良い機会ですので、ここに群馬県の環境問題について述べさせていただきます。これまでに明らかになったデータから指摘できることは、群馬県における最も大きな環境問題は、地下水・河川水の「窒素汚染」です。県民の大多数（あるいは県の職員でさえも）が、群馬の水がじつはかなり汚れているという実態を知らないと思います。たとえば、利根川は渋川市内では四国の四万十川に匹敵するくらいの水質を保っていますが、県内を流れ下るうちに、江戸川の下流に近いレベルにまで一気に汚染が進んでしまいます。また、東毛地区を中心として、地下水の窒素汚染は相当に深刻で、環境基準をクリアーできない水脈の割合が全国平均の四倍以上に達しており、全国的に見ても地下水が最も汚染された地域の一つです。これをこのまま放置しておくと、いずれ自然の浄化能力を使い果たし、汚染が回復不能になることは目に見えています。この汚染の原因としては、生活排水・農業施肥・畜産廃棄物などの関与が考えられますが、中でも畜産廃棄物の地下浸透による影響が大きいと思われます。ただ、これまで窒素汚染のメカニズムについて信頼できる調査研究が行われたことはありません。このような課題について科学的に解明し、早期に対策を講じる必要があるですが、その役割を果たす研究機関がありませんでした。あるいは衛生環境研究所が、本来果たすべきこのような使命を怠ってきたとも言えなくありません。群馬県は首都圏の水の三分の二を供給しています。群馬の水を守ることは、下流の住民に対する「水源県」の責任です。そのようなわけで、群馬県衛生環境研究所では、来年度から環境部門を「水」の研究に特化することとし「水資源研究センター」と名称も改め、再スタートさせることにしました。地下水・河川水・湖沼水・湧水・温泉水など、県内のあらゆる「水資源」を保全し、将来にわたって「持続可能（サステナブル）」な資源として利用するために何をしなければならないか、水資源研究センターは「水のシンクタンク」を目指して、新たな視点から調査研究を進めたいと考えています。

環境分科会の発展を期して



元群馬県衛生公害研究所長　氏家　淳雄

私が関係していた最后の年度より、既に15年以上経っている。様々な研究会を司会していたこともあって、交雑しているだけに、皆さんに関する思い出が不正確になっている。従って、それらから離れて、環境問題について総説的に私見を述べてみたい。総論的と云うのは「まとめ」と云うことでなく、関連していることを結びつけながら流れを加えて述べることである。

ソ連の崩壊より、共産主義好みの文化人（本当は、新しきを好む文明人）、学者、ジャーナリストなど、今更左がかった言を論じても受けないことより、学問の浅くて入り易い動物愛護、人権、環境などの問題について多言するようになった。従って、様々な錯誤を感じているのは私だけでないだろうと思う。例えば、白鳥に興じているが、河川の汚染は考えていない。鷹の生息のため電力事業を控えさせているなど、事の軽重を考えていない。地球温暖化説も真の研究者を無視した彼等の成果だと思う。

偖、彼等から離れて私見を述べましょう。

水汚染のことですが、一般人の水の使用が多すぎる。風呂、洗濯、洗車など意識することなく、毎日多量の水道水（飲料水として処理した水）を多量に使用している。それに対して、節約を決して考えずにダム建設や伐材禁止などを論じているだけである。

ダムは、水不足のために貯水するのである。ダムを作っても水が湧いてくるわけではない。蒸発、地下浸透としての消費量が多く、利子を払っている貯金のようなものである。伐材しても、根が20年以上残っているし、その間に木も育ち、森の抱水量は少なくならない。人手を加えた林業を忘れてはいけない。水道のない時代、風呂水を汲み運ぶのは子供の仕事であった。井戸が我家にあって近いなら良いが、遠くにあると、実に大変であった。しかし、苛酷なる水汲によって、子供達は忍耐心を養うことが出来た。

偖、大気汚染の話題に転じましょう。

オゾンホールは生物が増殖してから地球が経験したことのない現象で極めて大きな問題である。然し、フロン酸についてのみ論じられている。実験室内のことは正しいが、実際に大気、特に、成層圏内でどのように調査されているのか、何となく信じ難い。飛行機、特に大型飛行機は成層圏を飛んで、大量のガソリンを消費し、大量の酸素、オゾンを消費している。しかも、調査方法によっては、消費を量的に実測することが出来る。今世紀の課題として、飛行機公害について調査するべきである。フロン酸よりも、飛行機の方が大きく関与していると思う。

地球温暖化論は疑問点が多い。数万年前は今よりCO_2が多いのに、氷河時代であった。

地球の軸変化も関与して、寒暖を繰り返して今日に到っている。植物が先行してO_2が多くなるにつれ、動物が出現し、あたかも動物と植物とがバランスをとり合っているようである。

昔から植物優勢は変わらないが、ある段階からCO_2減少が目立たなくなっている。然し、増加はなかった。地球の南極、北極など、人為や生物の関与しない場所を定点として、CO_2を測定する必要があると思う。また、腸管における好気性菌と嫌気性菌とのバランスの如き、土壌における細菌類のO_2とCO_2のバランスも考慮すべきである。エネルギー代謝の大きい細菌類を除外するべきではない。然し、化石燃料を妄りに乱用することは慎むべきである。

さて、昔から人的被害もなく燃やし続けて来たのに、ダイキシンが問題化している。ダイオキシンは多種類があり、それぞれの毒性の強さにより、実測量を調整し測定値を求めているが、夫々の毒性を同質と仮定しているのが気にかかる。測定法を改定する必要を感じる。農薬（殺虫剤）を用いない農産物が重用されているが、化学毒である農薬が、そのまま吸収されて毒性を保持したまま、植物体内に蓄積されるとは考えにくい。科学毒であるだけに、多くの箇所で反応するため、恐らく吸収しないと思う。貝毒、コレラ毒のように、生体で産生される有機毒は特定の細胞とだけ反応するため生体内に蓄積し、反応する細胞をもっている生体にのみ毒性を示す。昆虫、魚などの生態学を加えて研究するべきと思う。

近代セメントの寿命も気にかかる。近代建築が始まってよりもう直ぐ100年になるが、酸性雨のこともあり、何時劣化してセメント建造物の修理を要するかである。かかる時期が来れば、劣性の検査及び修理が膨大になることが想像出来る。このように、問題を挙げれば限りがない。

最後に最も重要であるが、策が見出せない環境問題は世界における人口増問題である。フィリピンは、ここ50年間で4倍に増加している。更に文明度の低いアフリカ、南米その他東南アジアのある地方など、文明的娯楽の少ない低開発地区なら、100年間で20倍に増加することも考えられる。私の推測では低く見積っても、このままなら、100年後10倍に増加するとして、600億人位になると思う。日本の人口も10億人位になるだろうが、人口構成は日本人が3億人で、外国人が7億人になると云うことです。

国際協力としてフィリピン、トルコ等に人口増加抑制のためのプロジェクトチームが派遣されているが、殆ど効果が得られていない。20年位前よりエイズが流行し特に低開発地方で流行し、人口抑制に効果を示している。これなど神から与えられた有難いプレゼントと思っている。然し、かかる病気は100年以内に弱毒株が出現して、強毒株を押さえて流行する可能性が高く、いずれ抑制作用が小さくなると思う。これらの事について、大きな関心をもって様々なる策を考え、実行しなければならない。非常に難しい問題である。

狂牛病問題から異常蛋白質が食品によって感染し、発病することが判った。今後、最大の研究課題である。今まで、気がつかない異常蛋白質による被害はたくさんあると思う。高等生物が異常蛋白質を排除するために免疫系を発展して来たが、ウイルス、細菌に対する防禦としてのみ研究して来たため、見逃されて来た。これからは異常蛋白質について研究を重ねるべきで、様々な遺伝子操作に関連している医療や農作物に関心をよせることが重要

である。然し、発病までの潜伏年数が10年以上かかることが問題で、原因と結果を決めがたく、解明に、これから30年以上はかかるものと思う。

さて、時代とともに新しい事実が加わり、ますます環境問題も複雑化して来るが、正しい発展を期するためには、一般人が正しい知識をもって冷静に対処する雰囲気をもつこと、それに良き後継者を育てることである。わが国はわずか3頭の狂牛病が見つかっただけで大騒ぎしている。英国では18万頭の牛が発症している。日本では牛肉を食べても人的被害は殆どないと思う。発症しても15年位後のことである。老人なら死んでから発症するだろうと思う。とにかく正しい知識をもつことである。一般人が詳しい知識をもつことは出来ない故、専門家に委せる心をもつことでしょう。知識のない人々によるアンケートや統計操作をくり返しながら世論を作って行く方法は避けるべきである。後継者の教育は大切であるが、最近の若者は協調性や品性を失っているだけに段々と難しくなって来た。

鎌倉後期に書かれた徒然草に「自由」という文字がある。わがままという意である。英国から独立するため自立という意で「フリーダム」が使われた。また、西部開拓で開拓精神を含んで良き座右の銘の如く多用されて来た。明治になって民権運動が盛んになり自由と訳され、自由の意が「わがまま」から「自立せる開拓精神」と良き意の自由に様がわりした。更に「リバーテイ」までも「自由」と訳されている。

先日、チャップリンの独裁者をテレビで見たが、最後にチャップリンが兵士に向かって演説している。平和と自由が必要とくり返しながら云っているが、このときのリバーテイの意は開拓精神などとは反対に「ゆとりある小さなわがまま」と云う意のようであった。日本古来からの自由に近いが、自由が良悪一如として使われている。教育上問題の多い「自由」である。尋常の社会人を育てるため、尋常小学校という名の下で教育した昔の人は偉いと思う。素質はその後で自習するなり、特殊教育で育てることだろうと思う。後継者養成は、最初に尋常な社会人として、次いで必要な知識、技能を教え、着実に教育してほしい。

忍耐心は教育上必要なる項目で自由や個性を伸ばす如き美辞に惑わされてはいけない。「ゆとり」は生涯教育の言で若者の教育には必要ない。また、教育の「攵」は攴（むち）の意で、雀でも「むちを振り振りチイパッパ」と教えている。何らかの「むち」を考えることも必要なることでしょう。勿論お互いに愛情ある意思疎通が第一義である。

（平成14年1月31日記）

環境計量教習所の思い出



元群馬県計量検定所長　佐藤　安信

　このたび当環境分科会創立30周年を迎えるにあたり記念誌を刊行する計画にあたり、なにか投稿されたいとの申し出により、標題の拙文を投稿いたします。ご承知のとおり環境問題が社会生活に顕在化した昭和50年代初頭のことでした。その当時の横森所長に呼ばれ「君は旧制工業専門学校を卒業したのだから適任との」命令を受けた次第です。法律施行を控えて第一回の環境計量教習生はすでに計量会に巣立っていました。私の任命は第二回生の教習生でした。当時私は検定課長で毎日検定作業に追い回される日々でした。入所は全寮制二ヶ月間の長期間です。家族の問題、留守宅問題もあり、ショックを感じました。しかし、その後群馬県検定所では続々と後輩が同環境教習を終了しております。藤田元所長、松岡元所長、前笹尾所長、茂木次長、と資格者が生まれております。さて、この教習には条件があり、一般計量教習の修了者であること。また各県知事の推薦を要する。第二回生の概況について記す。総勢31名（公務員、民間2名）が4班に分かれて、教習が開始された。その講習内容が全て化学分野でした。31名中中学、高校時代化学専攻したものはただの1名だけ。最初の1週間、当時広島県の某専門学校で1年間で必修する教科書を1週間で終了するとの超授業にはなんとしても面食らった。学生時代の応用化学の友人の勉強を馬鹿にしたが科学の学問がこんなに論理的学問であることを知らされた。後で判ったのですが、発生電池の理論を、「pH計の理論」の為に酸性電池、アルカリ電池の原理を教え込まれたことになります。ミリボルト計算が判らない事では進まない事、酸性、アルカリ性の論理を会得しなければ、環境問題の理論の知識を行政に生かす事もできないことを痛感しました。朝のラヂオ体操にはじまり、まずい朝食、チンプンカンプン講義の連続、ただ苦しい講習ということは参加者の全ての実感と、思い出だと思う。いずれにしても全国の行政機関から公費で命じられた講習なので、終了証書を手に入れなければ帰省出来無いとの考えが毎日の講習者の肩におわされていた、辛い二ヶ月間の講習であり、誰でもの思い出に尽きるものでした。今振り返ると50歳前半の若さがあった事と今更感謝している次第です。お陰で、環境分析の手法、分析機種の概要についての初歩についてが知る事ができた思い出として残りました。その後県職の退職後の第二の職場の計量協会在職中に業界の江崎氏等と同会の証明部会の中に環境分科会を設立し、会員の融和と指導に役立ったと思っている。

（平成15年11月25日　逝去）

回 想 記



元群馬県計量検定所長　松岡 小十郎

一面の畑の中の一軒家、庭の杉の木には藁の固まりが無数にぶらさがっている。近寄って見ると雀の巣で多数の雀の囀りであった。

これは私が初めて叔父の家へ姉につれられて行った印象であり、畠には西瓜と甘藷が主に育ち、その西瓜は深井戸に吊され冷えて美味しく、サツマイモはホクホクで、食糧難の時代でもあったため特に記憶に残っている。

その後、時代とともに養鶏がブームになり近隣も殆んどの農家が1000羽程度を飼育したため、土地が肥え甘藷がうまくなくなったのを記憶している。

この養鶏もブームが去り、バブル崩壊となったが、叔父の家の隣（北西）にうづ高く糞の積った鶏舎が主不在で残ったため、悪臭と蝿の被害に辟易していたところ、ある日突然ここが産廃物の堆積場となり、更に加えて粉埃にも悩まされることとなったためか、叔父の家族は全滅し、現状では跡地は町の遊水場となっている。

この話は藪塚本町で発生した産廃物処理で話題となったが、私の実体験記であります。従って、環境問題には関心を寄せていたところですが、県計量検定所においても環境計量証明事業登録を手掛け、協会専務となっては特に環境分科会活動には積極的に支援してきたつもりであります。

ここに30周年記念誌発刊にあたり、永年のご懇情に感謝し、会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念申しあげる次第です。

氏家先生の思い出



環境分科会名誉会長　吉濱 和夫

社団法人群馬県計量協会・環境分科会30周年記念おめでとうございます。私が分科会の第3代会長職を勤めさせて頂いたのは、昭和60年5月から平成11年4月までであります。対抗馬のない知事選の如く14年もの間勤めた事になりますが、この間の分科会活動が後退する事無く一歩でも前進できた事は、ひとえに会員皆様の一致団結と行政の御協力・御指導そして名事務局長江崎氏の情熱と感謝しております。

振り返って見れば在職後半はバブルの崩壊と重なる事になりますが、環境分析業界はまだまだパイが拡大していた時代であり、会員皆様にも考え方に余裕があり、かつ紳士でありました。また、行政にも人的・時間的なゆとりがあった時代であり、ひときわ県衛生環境研究所様には技術的指導で大変な工数を負わせてしまいました。

こんな中で忘れられないのが、63年春まで衛環研所長を務められた氏家先生のことであり、科学技術のみならず生き様についての御指導まで賜ることになりました。民間企業との接触が少ない職場に居られたせいか、当時はまだ珍しかった環境分析で飯を食っている不思議な団体に興味を持たれたらしく、大変可愛がって頂き、技術移転等の便宜を気さくに図って下さいました。

先生は大変な読書家であり、訪問するたびに所長室は新たな医学書や政治経済学書であふれていました。常人には計り知れない脳細胞をお持ちの様で、我々の数10倍のスピードで山のような書物も読破されてしまう様でした。そしてこのあふるる教養から形成された持論を歯に衣を着せずに披露するのが大好きでした。特に、きたるべき老人社会と彷徨する医学については、深遠なる哲学とも言うべき持論をお持ちで、当時としては過激と思われる発言を乱発させ周りをヒヤヒヤさせましたが、現在では珍しい考え方ではなく、先生の先見性が証明された格好となっております。

また先生は大変気さくな方でもあり、年1回ほど行っていた分科会の視察研修旅行にも時間があれば参加して下さったのみならず、お顔の広さで視察先の研究機関をたびたび紹介して下さいました。先生は当時流行りであったサロンバスを大変気に入られていましたが、それは隔離された場で車座になって議論出来るからであり、出発と共にバス内は氏家政経科学塾に一変するのが常でした。衛環研ご退任後はWHO関係のお仕事で海外に長くいらっしゃったそうですが、現在は故郷福島でお元気にお過ごしとお聞きします。

さて、現実に戻りますとDXN類対策特別措置法の制定を最後に、見るべき環境法の改正は無いだろうと言われています。従って、環境分析業界も限られたパイをめぐっての価格大競争時代にいやでも突入する事になります。一方、環境省の内部精度管理指針や経済産業省の特定計量証明事業制度を契機に品質の大競争時代に突入した事も忘れてはいけません。高コスト、低価格の厳しい時代要求に合わせた分科会活動がますます必要となるのですが‥‥、もし氏家先生が居らしゃったらどのような見解を披露されたのでしょうか。

群環協の思い出



元環境分科会事務局　江崎　一

群馬県計量協会環境分科会創立30周年まことにお目出度とうございます。私が信越化学を退社して現環境技研に入社し、環境分科会に係わるようになったのが、昭和53年3月から平成7年までの長き年月でした。昭和53年頃はまだ環境分科会という正式な名称も無く、2～3社あるのみの黎明期でした。環境技研初代社長の斉藤信太郎さん、故佐藤善也社長、中央公害研究所の塚越先生と云う方々でした。また当時の群馬県計量検定所は乙部所長、計量協会は横森専務さんでした。横森専務さんはユニークな方で大変お世話になったことが想い出されます。時を経て同業者の数が増え、群馬県計量協会の中に環境分科会が創立されることになり、当時の環境技研斉藤社長が初代会長に就任されました。

また分析測定技術の向上の為め群馬県衛生公害研究所との交流が本格的となった、当時の所長が氏家先生でした。以降氏家先生が昭和63年3月退任されるまで、衛研で定例的に行はれた分科会会員による技術研究発表会の開催、また年一回の視察研修会等、様々な指導を頂きました。また陰では元計量協会佐藤専務さんの長きにわたってのお力添えがあったからだと、今でも思って居ります。一次オイルショックからバブルの時代そして、崩壊を経験しました。ショックから立上がりバブルの時代、分科会も県単のみでなく、(社)日本環境測定分析協会、北関東三県連絡会議(茨城、栃木、群馬)その後三県だけでなく新潟、長野、神奈川、東京、埼玉、千葉と輪が広がり、益々素晴しい方々と巡り逢へ、明日への「夢」の多くを語らさせて頂いきました。日環協では金子、宮島、鷺さん、神奈川では風間、久代、北村さん、茨城では笠井、東上、横山、菅原さん、栃木では小仁田、浅見、松村さん、新潟では宮崎さん、長野では梅垣、斉藤さん、千葉では茂木さん、埼玉では広瀬さん、いづれの方も素晴しい方々、群馬ではその間斉藤会長からコーポレーション吉村会長、環境技研吉浜会長へリレーされていました。

昭和63年2月7日、群馬県計量協会環境分科会創立以前からご親交頂いた、佐藤善也社長が死去と云う悲しい別れがあり、その後私が環境技研を退社してから分析センター浅川会長へとバトンタッチされ、つい先日伺った所では分科会員数が二十社を越へたとのことを聞きスタート当初の事を思へば夢のようです。私が環境分科会での一番の思い出は、私の送別会を京都でして頂けたことです。分科会の皆様方に改めてお礼を申上げます。昨今厳しい時代となって居りますがどうか「共生」をモットーとして、互いに頑張って下さい。最後になりますが群馬県計量協会環境分科会の益々のご発展を祈念申上げ思い出の一端とさせて頂きます。

群馬県計量協会環境分科会創立30周年記念を祝して



元環境分科会副会長　原　善彦

環境分科会創立30周年を迎えられたこと誠にお慶び申し上げます。

私は衛生環境研究所に30年間近く仕事をさせていただきました関係で環境分科会には、発足以来、平成9年度までの長年にわたり勉強をさせていただき、大変お世話さまになりました。

思えば、創立当時の社会情勢は,九州地方で端を発した有機水銀による水俣病、富山県の神通川流域で発生したカドミウムによるとされているイタイイタイ病、四日市での亜硫酸ガス等の大気汚染によるぜんそく病、PCBによるカネミ油症事件など、公害関連事情が多く発生、報道された時期でした。それに伴い、水質、大気、食品関連汚染に対する関心の高まりと共に、その試験分析の需要も多くなってきました。

私も当時試験分析関係に携わっていましたが、光学機器の分光光度計による分析が多く使われていました。金属分析には原子吸光、有機分析にはガスクロマトグラフィーが新たに導入され、微量な物質を素早く正確に測定できるようになりました。その新しい分析手法は驚きと同時に胸をどきどきさせて試験を行なった思い出があります。また、その当時分析手法は確立されておらずまちまちの部分がありました。例えば、PCB分析においては、PCBそのものが純粋のものでなく種々の混合物であり、ガスクロマト上での形（パターン）で種類を分析者が判断し,標準品を選び定量値を算出する方法でした。しかもクロマト上での計測にはノギスを使い検量線を書き定量したものです。

当時は、発展途上の時代で試験担当者は戸惑い、大変ご苦労されたことと思います。また、時代の要求に対応して、データの正確性、機器管理の重要性がより求められ、また、法律の規制値等の追加改正が盛んに行われました。

現在は、原子吸光分析、ガスクロマト分析にしろ、自動化され、コンピュータ化し、技術者間による誤差は最小限になり、かつ又、質量分析まで頻繁に使用され、分析技術は格段に進歩したものだと感心している次第です。

私は、分科会で[尾瀬沼の現況]というテーマで報告させていただいたことが印象に残っています。当時、衛生環境研究所氏家所長の指導のもとに、尾瀬沼の水質調査を春、夏、秋を通じて十数年間関係者のご協力のもとに堆積物（火山灰を年代指標として）、水質の動態解明を行うことができました。自分にとっては、充実した仕事として懐かしく思っています。

環境分科会は、初代の斉藤信太朗会長を中心に、機器管理に、法改正について、計量検定所、衛生環境研究所、関係行政機関との情報交換を行なうべく、会を発足したと伺っています。このことは、行政上も事業者にとっても大変意義深く思います。

現在の環境分科会は、衛生環境研究所歴代所長、計量検定所歴代所長、行政関係各課の関係者の賛同を得て、発足当時より2～3倍の会員数となりました。内容も数種の部門にわかれ、また、北関東3県での意見情報交換等活発に活動されていると伺っています。このことは、現浅川会長を中心に、会員の皆様の熱意によるものと敬意を表する次第です。

昨今、環境問題は、アスベストや排ガス等多岐にわたり、かつ、複雑化してきています。環境分科会の活動は日常業務でのデータベースの蓄積、他社とのデータの共有など、重要性を増すものと思います。会のご発展と会員皆様のご活躍をご祈念申し上げます。

創立30周年記念事業プログラム

1 創立30周年記念式典

(1)開催日時　平成18年5月19日(金)　15:00～16:00
(2)場　　所　ウエルシティ前橋　3階　「曙の間」
(3)内　　容　　14:30～15:15　受付

開式の辞
主催者挨拶
来賓祝辞
30 周年の歩み
来賓紹介
環境計量功労者表彰　裏面名簿のとおり　26名
①環境計量証明事業経営者
②環境分科会役員等
③環境計量証明事業所
④環境計量測定優良従業員等

受章者代表謝辞

閉式の辞

2 特別記念講演

(1)時　　間　16:10～17:20
(2)場　　所　ウエルシティ前橋　3階　「曙の間」
(3)演　　題　「環境教育の課題」
(4)講　　師　「群馬県教育長　内山　征洋(まさひろ)　様」

3 記念パーティー

(1)時　　間　17:30～19:00
(2)場　　所　ウエルシティ前橋　3階　「ロイヤルオーキッド」

会長挨拶
来賓祝辞
来賓紹介
乾杯
中締め
閉会

4 創立30周年記念誌の発行　　記念誌・記念品(CD-ROM)

環境計量功労者会長表彰受章者（敬称略・順不同）

氏　　名	事　業　者　名	表 彰 区 分	備　　考
佐藤　緋佐子	(株)インフォマテックヨシヤ	経営者部門	
下山　親一	(株)不二ケミカル	経営者部門	
新井　由雄	(有)アライ計量事務所	経営者部門	
佐藤　竜馬	(株)インフォマテックヨシヤ	役員等部門	
高橋　行正	(株)環境科学コーポレーション　関東事業所	役員等部門	
足立　英則	(株)環境技研	役員等部門	
佐藤　修	(株)群馬分析センター	役員等部門	
福島　孝志	三洋電機(株)事業開発本部 環境リサーチセンター東部	役員等部門	
中林　栄一	(社)群馬県薬剤師会　環境衛生試験センター	役員等部門	
関根　勇仁	(株)環境分析センター	役員等部門	
荒井　哲雄	(株)ヤマト　大和分析センター	役員等部門	
(株)総合環境分析　北関東支社		事業所部門	
宇佐見　英一	(株)環境技研	従業員部門	
高木　英昭	(株)環境技研	従業員部門	
松村　裕之	(株)群馬分析センター	従業員部門	
赤穂　和行	(株)群馬分析センター	従業員部門	
根岸　栄	(株)環境科学コーポレーション　関東事業所	従業員部門	
青島　ウメ	瑞晃化学(株)	従業員部門	
大澤　豊弘	瑞晃化学(株)	従業員部門	
佐藤　伸子	シバタ環境科学(株)	従業員部門	
小畑　勝	パリノ・サーヴェイ(株)	従業員部門	
池田　則雄	(社)群馬県薬剤師会　環境衛生試験センター	従業員部門	
清水　則幸	(財)群馬県健康づくり財団　検査事業部	従業員部門	
金子　弓子	(有)アライ計量事務所	従業員部門	
中野　恵子	関東電化産業(株)	会長特別	
荻野　容子	(社)群馬県計量協会	会長特別	感謝状

活動記録（あゆみ）

おもな活動年史（事業年度表）
技術委員会及び浄化槽委員会記録
技術発表会記録



事業活動記録

昭和51年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和51年6月4日	群馬県民会館	協会通常総会、理事会 組織変更・分科会新設（第1回総会）
6月22日	群馬県計量検定所	環境分科会事業の具体的打ち合わせ 事業計画・経費等
7月20日	群馬県計量検定所	月例会　事業再打合せ
8月20日	群馬県衛生研究所	月例会 所内見学、衛生研究所との話し合い（フリートーキングタイプで話し合い、氏家所長より場の提供発言（技術指導））
9月20日	群馬県工業試験場	月例会 場内見学「大気汚染の金属影響」につき説明
10月20日	群馬県計量検定所	月例会 経営問題につき協議
11月18日	群馬県農業試験場	月例会 場内見学「農業用水基準」「土壌分析項目」につき説明
12月17日	群馬県水産試験場	月例会 場内見学「養魚水質基準」「水質分析」につき説明
昭和52年1月26日	群馬県衛生研究所	月例会 講演会：金井公害課長、氏家衛生研究所長
2月16日	前橋市下水処理場	月例会 改正下水道法講習 場内（分析室を含む）見学
3月16日	群馬県衛生研究所	月例会　52年度事業打合せ
3月24日	群馬県計量検定所	計量証明書発行内容につき説明

昭和52年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和52年5月13日	群馬県消費生活センター	第2回総会 講演会 「環境計量事業者の現況」 講師　日本環境測定分析協会　常務理事　後藤孝
5月30日	群馬県衛生研究所	月例会 研究発表(会員当番制) 「日本近海海洋汚染実態調査における有害物質の微量分析について」 (株)環境分析センター　岩崎隆昌
6月16日	前橋地方気象台(気象庁)	月例会 台内見学 「県内の気象問題」につき説明
7月20日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「BOD 測定の現状と問題点」 ヨシヤ産業(株)　小林透
8月29日	群馬県計量検定所	「環境計量指導要領」説明会
9月29日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「総水銀分析上の問題点」 (株)不二ケミカル　森口宰吉・山崎百々代 クロスチェック試料配布
10月28日	水資源開発公団 草木ダム管理所	月例会　所内・ダム見学 ダム水質管理についてスライド及び口頭による説明
11月22日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「流出汚泥の BOD 測定値に与える影響について」 (株)群馬環境技研　川口勝・石井雅子
12月16日	群馬県畜産試験場	月例会 場内見学(分析設備棟) 「畜産の諸問題」につき説明
昭和53年1月19日	群馬県衛生研究所	月例会 シアンと BOD のクロスチェックの結果発表 群馬県衛生研究所　原研究員
2月21日	群馬県繊維工業試験場	月例会 場内見学 「繊維工業の諸問題」につき説明
3月20日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「綿貫団地プラント放流水の水質変動」 (株)群馬県し尿浄化槽維持管理高崎センター 浅川千佳夫 「下水汚泥の緑農地利用の可能性と問題点」 群馬県衛生研究所　原研究員

昭和53年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和53年4月26日	群馬県計量検定所	月例会　第3回総会(53年度事業打合わせ)
5月22日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「環境計量(大気)の問題点について」 瑞晃化学(株)　青島功
6月27日	群馬県林業試験場	月例会　場内見学 「林業の諸問題」につき説明
7月24日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「油分測定における JIS 法と油分計の比較」 「飲料水中の懸濁物の調査」 「フッ素イオンの金魚及び鯉に対する影響調査結果」 東京三洋電機(株)　上原武正
8月22日	群馬県園芸試験場	月例会　場内見学 「果実・野菜の諸問題」につき説明
9月25日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「六価クロム分析方法の検討」 日本重化学工業(株)中央研究所　中山義博 「還元物質共存時におけるクロム(VI)の吸光光度定量法」 「Separation and Determination of Mineral and Vegetable Oils in Water with The Use of Molecular Sieve 5A」 群馬県衛生研究所　内山技師
10月24日	群馬県繭検定所	月例会　場内見学 「製糸の諸問題」につき説明
11月20日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「BOD、六価クロム、トータルクロムのクロスチェックの結果発表」 群馬県衛生公害研究所　内山技師 「植種液の馴致度が及ぼすBOD測定値への影響」 「植種量の相違が及ぼすBOD測定値への影響」 (株)群馬環境技研　川口勝
昭和54年1月17日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「BOD、六価クロム、トータルクロムのクロスチェックの結果発表」 群馬県衛生公害研究所　原研究員 「分析時の誤差の出来方について」 ヨシヤ産業(株)　小林透
2月26日	群馬県計量検定所	工業品検査所立入検査結果検討会

昭和54年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和54年5月25日	群馬県衛生公害研究所	月例会 「BOD、COD 及び TOC の共同実験について」 (株)環境分析センター　根岸　栄 第4回総会(54年度事業打合せ、5県連絡当番下打合せ)
6月29日	群馬県計量検定所	54年度事業打合せ 5県連絡当番打合せ
7月20日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「プログラム電卓 PC1300による計算例」 (株)不二ケミカル　下山親一 「蛍光増白剤」について」 群馬県衛生公害研究所　内山技師
9月28日	群馬県衛生研究所	月例会　研究発表 「大気測定結果について」 瑞晃化学(株)　青島功 「硝化菌数」 群馬県衛生公害研究所　原研究員
10月3日～ 10月4日	伊香保町　ホテル天坊	環境計量協議会5県連絡会
11月30日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「ひ素の原子吸光光度分析について」 東京三洋電機(株)　上原武正
昭和55年1月22日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「簡易分析法および公定分析法による測定値の相関性について」 「BOD と COD の相関性について」 (株)群馬環境技研　川口勝
3月19日	群馬県計量検定所	関東環境計量協議会連絡会(3月5日開催)の内容説明
3月28日	群馬県計量検定所	業務関係連絡打合せ

昭和55年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和55年4月11日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「検量線の下限」 ヨシヤ産業(株)　小林透
4月16日	群馬県計量検定所	業務連絡会
6月11日	群馬県計量検定所	第5回総会(54年度報告、55年度事業計画)
6月19日～ 6月20日	筑波研究学園都市 環境庁国立公害研究所 通商産業省化学技術研究所	研修見学会
6月24日	栃木県職員会館	近県情報連絡会議(茨城、群馬、埼玉、栃木)
7月24日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「JIS K 0101のシアン分析についての一考察」 (株)群馬分析センター　阿部一浩
8月6日	群馬県計量検定所	業務連絡会
8月20日	群馬県計量検定所	業務連絡会
9月12日	群馬県計量検定所	業務連絡会
9月23日	群馬県計量検定所	業務連絡会
10月21日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「富栄養化指標の藻類培養試験について」 (株)環境分析センター　関根勇仁
11月12日～ 11月13日	鬼怒川温泉　第一ホテル	北関東環境分析協議会連絡会
12月15日	群馬県計量検定所	業務連絡会
昭和56年1月27日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「原子吸光分析について」 (株)柴田建材店　柴田道夫 「尾瀬沼の富栄養化におよぼす人為要因の解明」 群馬県衛生公害研究所　原研究員
2月20日～ 2月21日	三島市　第一グランドホテル	南関東地区環境分析協議会連絡会(栃木、東京、長野、静岡、千葉、埼玉、群馬、神奈川)

昭和56年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和56年5月20日	群馬県計量検定所	第6回総会(55年度報告、56年度計画、役員改選)
5月20日	群馬県衛生公害研究所	講演会 「国民の健康の保全と法規制」 講師　群馬大学講師　上林邦充 「金属の生体作用」 講師　群馬大学教授　和田攻 「つつが虫病その他について」 講師　群馬県衛生公害研究所　氏家所長
7月16日	群馬県計量検定所	役員会(56年度計画)
8月21日	群馬厚生年金会館	月例会 環境計量測定法のビデオによる研修 「排ガス中のダスト濃度測定法」 所要時間30分 「騒音の測定法」 所要時間30分 「本部の活動状況等について」 日本環境測定分析協会　常務理事　金子士郎
9月8日	県庁会議用庁舎第一会議室	講演会　環境白書説明会 群馬県公害課長　砂長嘉久
9月22日	群馬県計量検定所	業務連絡会(工数)
10月2日	群馬県計量検定所	業務連絡会(工数)
10月15日～ 10月16日	長岡技術科学大学	研修見学会
11月27日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「騒音・振動についての問題事例」 (株)群馬環境技研　大気担当　永井憲作 「通産省工業品検査所の行う立入検査について」 計量検定所　藤田次長
昭和57年2月8日	群馬県衛生公害研究所	月例会 「トリハロメタンについて」 群馬県衛生公害研究所　内山主任
3月25日	県庁北会議室第一会議室	理事会(56年度報告、57年度計画)

昭和57年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和57年4月16日	検定所庁舎第3会議室	第7回総会
5月27日	群馬県衛生公害研究所	月例会　講演会 「藻類の生態学について」 高崎市立経済大学教授　理学博士　舟橋説往
6月29日	群馬県計量検定所	理事会
7月20日	県庁北会議室第一会議室	月例会　業務研究 講演会 「環境白書を中心に公害問題について」 群馬県公害課参事　栗原順太郎
8月26日～ 8月27日	安中市磯部　磯部ガーデン	北関東環境分析協議会
9月7日～ 9月8日	(株)諏訪精工舎 長野県諏訪湖流域下水道事務所	研修見学会
10月29日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「埋立地浸出水の水質分析について」 (株)柴田建材店　柴田道夫
11月26日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「馥郁たるかおり　C_9H_9N　副題　三点比較式臭袋法について」 ヨシヤ産業(株)　佐藤善也
昭和58年1月25日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「尾瀬沼底質の性状」 群馬県衛生公害研究所　原研究員

昭和58年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和58年4月22日	群馬県計量検定所	第8回総会(57年度報告、58年度計画、役員改選)
6月16日	群馬県計量検定所	業務連絡会(工数)
6月30日	群馬県衛生公害研究所	講演会 「医学雑感」 群馬県衛生公害研究所　氏家所長
7月19日	群馬県計量検定所	研修見学会打合せ
8月10日	群馬会館	月例会 環境白書説明会 群馬県　公害課長　柏倉康光
9月5日～ 9月6日	尾瀬沼	研修見学会
10月28日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「ボイラーのチッ素酸化物について」 瑞晃化学(株)　神田良男
11月24日	栃木県	北関東環境測定機関協議会
昭和59年1月23日	群馬県衛生公害研究所	月例会　研究発表 「関東地方の酸性雨について」 群馬県衛生公害研究所　関口主任
2月16日	群馬県計量検定所	役員会(59年度事業予定等)

昭和59年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和59年4月24日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「酵素法による食品分析方法の開発について」 (魚類の鮮度) (株)環境分析センター　根岸栄
5月15日	群馬県計量検定所	浄化槽法について
7月24日	群馬県衛生公害研究所	「水汚泥の緑農地利用」 群馬県　下水道課参事　曽小川久貴
8月31日	群馬県計量検定所	研修見学会の件について
9月7日	埼玉県環境協議会	イオンクロマトグラフ分析法
9月17日～ 9月18日	神奈川県厚木市 チャールズ・リバー(株)	研修見学会
10月11日	群馬県衛生公害研究所	活性汚泥好気性硝化について (株)群馬環境技研　川口勝
10月18日	群馬会館	環境白書説明会 群馬県公害課長　柏倉康光
11月16日	群馬県工業試験場	試験場研究見学会
12月7日	群馬県計量検定所	北関東環境測定機関連絡会報告について 新年互例会について
昭和60年1月22日	前橋市上毛会館	年賀交歓会
1月22日	群馬県衛生公害研究所	塩素有機物質の環境汚染について 群馬県衛生公害研究所　独立研究員　内山征洋
2月19日	群馬県計量検定所	北関東3県連絡会議について 60年度事業予定について

昭和60年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和60年4月9日	群馬県計量検定所	昭和59年度監査
4月25日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「BOD とパソコンについて」 (株)不二ケミカル　下山親一
4月25日	群馬県計量検定所	第10回総会
7月3日～ 7月4日	鹿島勤労総合福祉センター　鹿島ハイツ	研修見学会 見学場所　つくば科学万博会場
8月7日	群馬県衛生公害研究所	クロスチェック結果検討会
9月18日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「環境汚染による植物遷移と遷都」 ヨシヤ産業(株)　佐藤善也
9月21日	群馬県計量検定所	群馬県環境衛生課より要望事項
11月26日	安中市磯部　磯部ガーデン	北関東環境測定機関連絡会議
1月21日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「BOD 試料に銅イオンが含まれた場合の対処について」 (株)群馬分析センター　植原政彦 「温泉の効用」 群馬県衛生公害研究所　氏家所長
1月21日	上毛会館	新年互例会



昭和61年度

開催年月日	開催場所	内容
4月18日	群馬県計量検定所	監査
5月21日	群馬県婦人会館	第11回総会
5月27日	群馬県衛生公害研究所	第1回計量士技術研修会
7月7日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「花粉化石と古環境について」 パリノ・サーヴェイ(株)
9月9日～ 9月10日	新潟厚生年金会館	研修見学会 1．柏崎刈羽原子力発電所見学会 2．BOD クロスチェック結果の検討会
10月27日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「微生物の環境汚染」 (財)群馬県公衆保健協会　原田賢治
11月12日	群馬県婦人会館	研修会 「群馬環境白書」について
昭和62年1月21日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「菌の違いによるBOD 値への影響について」 瑞晃化学(株)　中曽根聡 「前橋を中心とする地域の大気の移動について」 群馬県衛生公害研究所　嶋田独立研究員
1月21日	上毛会館	新年互例会



昭和62年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和62年5月12日	群馬県計量検定所	会計監査
5月20日	群馬県婦人会館	第12回総会
7月30日	群馬県計量検定所	標準料金設定委員会 分析工数の検討について
7月30日	群馬県衛生公害研究所	62年度第1回研究発表会 「放射化分析とその応用」 (株)環境分析センター　星正敏
8月28日	群馬県計量検定所	1．標準工数及び単価について 2．62年度研修見学会について
9月24日～ 9月25日	山梨県甲府市　柴玉苑	研修見学会 サントリー(株)白州蒸留所及び博物館 サントリー(株)山梨ワイナリー
10月8日		標準工数及び単価表の配布について
11月18日	群馬県婦人会館	62年度研修会 「群馬県環境白書」について
11月24日	群馬県衛生公害研究所	第2回研究発表会 「希土類について」 (株)群馬環境技研　佐藤松次
12月4日	群馬県計量検定所	計量士技術研修会 「公害計測用標準ガス及び標準液の検査制度」について
昭和63年1月21日	群馬県上毛会館	新年互例会
1月27日	群馬県衛生公害研究所	第3回研究発表会 「天然水中の金属錯化容量」について 日本重化学工業(株)　見持洋司 「尾瀬沼のコカナダモ」について 群馬県衛生公害研究所　原部長
3月27日	ミヤマ会館	氏家所長及び藤田所長を囲む懇談会(送別)

昭和63年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和63年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないようにつとめた。
5月18日		本会事務局において、昭和62年度収支決算について、新井、浅川両監事によって監査が行われた。
5月20日	群馬県婦人会館	群馬県の環境衛生課 岸総括課長補佐、計量検定所大山所長、松岡次長を来賓に迎えて、第13回の総会を開催した。総会終了後懇親会を開催した。
8月2日	群馬県計量検定所	昭和63年11月に開催予定の関東北3県環境測定機関連絡協議会の開催当番について協議し、開催期日、場所、会費等を決定した。なお、行政機関の来賓については前例にならって要請することとし、また、記念講演についても実施することとした。
8月3日		群馬県環境衛生部長から本会の事業概要及び事業予定等について知りたい旨の要請があったので、昭和62年度事業、63年度事業予定、過去の研究発表の実績について報告書を提出した
8月19日	群馬県衛生公害研究所	第1回研究発表会 「発熱量について」 (株)群馬分析センター 佐藤修
9月9日		北関東環境測定機関連絡協議会の開催について、(社)日本環境測定分析協会及び各県に通知 来賓の臨席方について依頼文の発送
9月21日	群馬県庁正庁の間	群馬県クリーン・アップ GUNMA'89フェア開催委員会の開催、吉濱会長が出席
10月7日	群馬県衛生公害研究所	第2回研究発表会 「保存条件による BOD 値変化について」 瑞晃化学(株) 中曽根聡 9月8日の第1回技術委員会の結果報告
11月5日	群馬県計量検定所	群馬県クリーン・アップ GUNMA'89フェアの協賛について協議し参加決定、柴田浄化槽委員長に依頼 (株)群馬分析センター社長 塚田邦雄氏が県功労者表彰を受賞された旨の報告され、記念パーティーに会長及び浄化槽委員長が会を代表して出席することが決まった
11月10日		北関東環境測定機関連絡協議会の資料について、群馬県公害課長、計量検定所長に送付し、同会議へのご臨席指導方を要請
11月14日		北関東環境測定機関連絡協議会の際、県外参加者の研修見学会の視察工場である「大同特殊鋼株式会社渋川工場」に対して、見学申請依頼

11月25日～ 11月26日	伊香保町　福一	北関東環境測定機関連絡協議会 記念講演 「群馬県の公害行政の現状」 群馬県公害課　石川課長 翌日、大同特殊鋼渋川工場の見学 来賓:群馬県公害課　石川課長、群馬県衛生公害研究所　高野主任研究員、群馬県計量検定所　大山所長、松岡次長、(社)日本環境測定分析協会　風間常務理事、関東支部　影山支部長、鷺事務局長
12月23日		「定量下限値と有効数字に関する実態調査」再提出要請
12月26日		(社)日本環境測定分析協会より群馬県計量検定所あてに、昭和63年度優良事業場認定として(株)群馬環境技研、三洋電機(株)東京製作所、(株)群馬分析センターが認定された旨通知があった
平成元年1月30日	群馬県衛生公害研究所	第3回研究発表会 「高濃度オキシダント時における風系について」 群馬県衛生公害研究所　嶋田好孝独立研究員 技術委員会の状況報告 群馬県クリーン・アップ GUNMA'89フェアへの協賛について進行状況と協賛行事等の方法について報告
1月30日	上毛会館	新年互例会 来賓:環境衛生課長、公害課、群馬県衛生公害研究所、群馬県計量検定所
2月6日	県庁内会議室	群馬県クリーン・アップ GUNMA'89フェア出展等に関する要領の制定・説明会が開催され、柴田委員長が出席
2月17日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップぐんま'89フェア」についての協賛に関する最終打ち合わせを行い、出席当番等の細部を決定 「消費税の実施」に伴う分科会の対応については中央団体及び行政機関の指導を待って検討することを申し合わせた
2月24日～ 3月1日	前橋市　西武デパート	クリーン・アップぐんま'89フェア開催
3月20日	群馬県計量検定所	「計量証明料金」に関する消費税の取り扱いについて協議し、外税による転嫁を申し合わせた 平成元年度の総会日時について協議 クリーン・アップぐんま'89フェアの結果について報告 浄化槽委員会　浄化槽法定検査の実施内容について検討協議

平成元年度

開催年月日	開催場所	内容
平成元年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないように勤めた。
4月26日		群馬県環境衛生課より依頼の「昭和63年度 BOD 等の検査実績件数の調査」について、会員宛に報告方を依頼
5月9日		昭和63年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月16日	群馬県婦人会館	第14回総会 来賓:群馬県公害課　石川課長、環境衛生課　須藤係長、群馬県衛生環境研究所　原生活環境部長、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡次長 総会終了後、懇親会
6月7日		技術委員会の作成した資料「環境分析に関する分析数値の取り扱いについて」を県内各市町村担当課宛に送付し、環境分科会の業務と PR につとめた。
7月13日		浄化槽委員会会員宛に、浄化槽に関する第7条検査の分析料金にともなう消費税の取り扱いについて通知
7月20日	群馬県衛生公害研究所	元年度第1回研究発表 「糟糠(発酵米ぬか)の植物に対する害に関する栽培試験報告について」 パリノ・サーヴェイ(株)　中根秀二
8月17日		(社)日本環境測定分析協会関東支部主催による研修会の開催通知を会員あてに行った
9月21日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'90」開催実行委員会に吉濱分科会長が出席
10月20日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップフェア'90」に関する対策について協議し、技術委員会のメンバーを中心に企画・対策委員を決めた
10月20日	群馬県衛生公害研究所	第2回研究発表会 「共同抽出を利用した血清中の微量元素の黒鉛炉原子吸光分析について」 日本重化学(株)中央研究所　境謙吉
11月20日	群馬県婦人会館	「群馬県環境白書」についての研修会 群馬県公害課　石川課長
11月22日～ 11月23日	栃木県藤原町鬼怒川温泉　鬼怒川グランドホテル	北関東環境測定機関連絡協議会 翌日、日光東照宮の見学

12月7日		群馬県環境衛生課による「クリーン・アップフェア'90」開催委員会浄化槽部会へ吉濱分科会長が出席
12月25日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップフェア'90」への協賛金、第3回研究発表会、技術委員会アンケートについて、研修見学会等について協議を行った
平成2年1月25日		群馬県環境衛生課から平成2年度の浄化槽・法定検査(11条)の実施区域等について通知があったので、浄化槽委員会・会員あてに通知した。
1月26日	群馬県衛生公害研究所	第3回研究発表会 「溶存酸素計(DO 計)使用時における気圧補正について」 (財)群馬県健康づくり財団　熊木修 「自動車交通にともなう交通騒音について」 群馬県衛生公害研究所　中島穂泉技師 「クリーン・アップフェア'90」委員会から、参加企画案「PPM の世界」についての説明と会員への協力要請を行い、展示場への当番係員については事務局から連絡することの申し合わせ
1月26日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県公害課石川課長、環境衛生課　須藤係長、群馬県衛生公害研究所　林事務部長、原生活環境部長、高野主任研究員、嶋田独立研究員、群馬県計量検定所　内田課長
2月9日	県庁会議用庁舎	「クリーン・アップフェア'90」委員会に吉濱会長が出席
2月22日～ 2月27日	太田市　太田ベルタウン	「群馬県クリーン・アップフェア'90」が開催 本分科会の展示小間「PPM の世界」
3月7日～ 3月8日	(財)上越環境科学センター	研修見学会 施設の見学を行い独自開発の分析機器や分析手法の説明を受け、続いて新潟県内の環境事業の概況、業界動向等について長時間にわたる懇談 同夜、大潟町鵜の浜温泉、三景旅館に宿泊 翌日、野尻湖、小布施町の北斎記念館、善光寺等の見学研修





平成2年度

開催年月日	開催場所	内容
平成2年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないように勤めた。
5月8日		平成元年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月11日	上毛会館	第15回総会 平成元年度の事業報告、終始決算報告ならびに平成2年度の事業計画、収支予算等の承認 来賓:群馬県公害課　清水課長、環境衛生課　飯塚廃棄物対策室長、群馬県衛生公害研究所　伊藤所長、飯塚生活環境部長、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡次長
6月14日	群馬県計量検定所	「技術委員会」「業務企画委員会」の選任の協議を行い、「分析標準料金」の改訂作業を行うための委員を選出 研修会 「ゴルフ場における農薬問題等」について 群馬県公害課　水質係長　内山征洋
6月18日		岡山県環境計量証明部会より標準料金等の照会があったので昭和62年度標準単価表、総会資料、研究発表記録等の資料を送付
7月10日	群馬県計量検定所	業務企画委員会 「分析標準料金表」、「県外研修見学会」の実施計画について検討協議
7月30日	群馬県計量検定所	業務企画委員会 「分析標準単価表」の最終案検討および作成部数の取りまとめについての協議
8月22日	群馬県計量検定所	新会員の(社)群馬県薬剤師会　環境衛生試験センターの紹介、「分析標準単価表」の配布、県薬務課から協力要請のあった「ぐんま温泉フェスティバル」への協賛について協議
9月1日		会報「計量群馬」を発刊し、「総会報告」並びに「新会員の紹介」、計量情報を掲載して会員に送付した
9月19日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'91」開催委員会に吉濱会長が出席
9月27日～ 9月28日	茨城県勝田市　(株)日立製作所那珂工場　テクノ・リサーチ・センター	研修見学会 概況説明を受けた後、 「最近の環境汚染分析」についての講演 同社顧問　酒井馨 テクノ・リサーチ、バイオ・メディカルセンターの見学 同夜、水戸市のサンレイク・水戸に宿泊

		翌日、大洗海岸、益子焼窯元の見学
10月1日		「環境測定分析標準単価表」の作成が完了したので、県内市町村の環境関係担当課あてに同表並びに「クリーン・アップフェア'90」における「環境関係アンケート結果報告書」を送付し会の PR に努めた
11月19日	群馬県婦人会館	「群馬県環境白書」について研修を受講 群馬県公害課　清水課長
11月26日		浄化槽専門委員会の経費に不足が出たので、特別会費の徴収
11月27日～ 11月28日	茨城県北茨城市　五浦観光ホテル	北関東環境測定機関連絡協議会 各県団体の活動状況並びに「ゴルフ場農薬等に関する」規制並びに指導状況についての情報交換 翌日、常磐共同火力(株)の勿来発電所施設の見学
12月13日	群馬県庁舎別館会議室	「クリーン・アップフェア'91」開催委員会・浄化槽部会に新井業務企画委員長及び佐藤専務理事が出席
12月21日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップフェア'91」に対しての協賛について協議し、出展計画については技術委員及び業務企画委員により検討することが申し合わされた
平成3年1月23日	上毛会館	「クリーン・アップフェア'91」出展計画について技術委員会委員、業務企画委員長との最終検討を行い計画案を申し合わせた
1月23日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「FIA 装置による NH_4-N の定量」 (株)環境科学コーポレーション群馬試験部　高平健一 「有機塩素化合物の生分解(微生物分解)」 群馬県衛生公害研究所　大谷仁己主任技師 「クリーン・アップフェア'91」への参加企画案「PPM の世界」について業務企画委員長の新井氏より説明と会員への協力要請を行い、展示場への当番係員について概略説明し細部は事務局から連絡することを申し合わせた
1月23日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県公害課　清水課長、原課長補佐、環境衛生課　須藤課長補佐、群馬県衛生公害研究所　伊藤所長、石井事務部長、飯塚生活環境部長、高野主任研究員、嶋田独立研究員、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡総括次長
2月4日	群馬県庁西庁舎第1会議室	「クリーン・アップフェア'91」委員会に新井業務企画委員長及び佐藤専務理事が出席し、出展コーナー等の最終検討が行われた
2月5日		会長名で「クリーン・アップフェア'91」の運営マニュアル及び展示会場当番等について会員に連絡するとともに協力方を依頼した

2月15日～ 2月19日	高崎市　JR 高崎駅東口	「クリーン・アップフェア'91」開催 本分科会の展示小間「PPM の世界」
3月11日	群馬県計量検定所	3月1日に示達された「群馬県ゴルフ場農薬安全使用ガイド」についての研修 群馬県公害課　水質保全係　内山征洋係長





平成3年度

開催年月日	開催場所	内容
平成3年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないように勤めた。
5月7日		平成2年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月20日	上毛会館	第16回総会 平成2年度の事業報告、収支決算報告並びに平成3年度の事業計画、収支予算等の承認 来賓:江黒廃棄物対策課長、公害課　原課長補佐、群馬県衛生公害研究所　伊藤所長、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡総括次長
7月26日	群馬県衛生公害研究所	第1回研究発表 「計量業務の解析作業について」 ヨシヤ産業(株)　新井由雄
9月26日	群馬県計量検定所	関東北3県環境測定機関連絡協議会の開催当番について協議 日時を11月20日～21日、開催場所を安中市磯部・ホテル磯部ガーデンに決定し、翌日の見学事業所を信越化学工業(株)松井田工場に選定
9月26日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'92」開催委員会に吉濱会長が出席
10月5日		北関東環境測定機関連絡協議会の開催通知を関係機関、該当県宛に発送
10月25日～ 10月26日	千葉市　ちば共済会館	(社)日本環境測定分析協会関東支部の主催、千葉県環境計量協会の当番により、日環協セミナー第3回関東甲信越大会の開催 第1日目 全体講演　環境庁地盤環境研究室長　楡井久 「地球環境問題と各国の動き及び日本の対応について」 環境庁地球環境部　研究調査室長補佐　市原信男 第2日目は2会場に分かれての環協測定分析事例発表があり、本県からは次の発表を行った 「群馬県におけるゴルフ場農薬の現状」 (株)群馬分析センター　阿部一浩　他1名 「イオンクロマトグラフ分析装置を用いた栄養塩類の測定と環境試料への適用についての検討」 (株)環境科学コーポレーション　片野剛
11月20日	安中市磯部　ホテル磯部ガーデン	北関東環境測定機関連絡協議会 来賓:群馬県公害課　中島課長、群馬県計量検所　萩原所長、松岡総括次長、(社)日本環境測定分析

		協会　世良専務理事、関東支部　影山支部長 各県団体の活動状況の報告発表や日環協の活動状況の報告に基づき情報交換を行った 記念講話 「計量法の改正案について」 群馬県計量検定所　萩原所長 資料配布 「群馬県環境白書」について 群馬県公害課　中島課長 翌日、信越化学工業(株)松井田分工場の見学
12月18日	群馬県庁西会議用庁舎第7会議室	「クリーン・アップフェア'92」開催委員会・浄化槽部会に新井業務企画委員長が出席
平成4年1月24日	群馬県衛生公害研究所	研究発表 「降雨前後における浮遊粉塵量の濃度変化について」 群馬県衛生公害研究所　環境科学部　嶋田独立研究員 技術委員会の進行状況について新井委員長及び荒井委員から資料に基づき説明 「クリーン・アップフェア'92」への参加企画案「PPMの世界」について新井業務企画委員長より説明と会員への協力要請を行い、展示場への当番係員について概略説明し細部は事務局から連絡することを申し合わせた
1月24日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県公害課　原課長補佐、群馬県衛生公害研究所　伊藤所長、飯塚副所長、石井管理部長、秋山環境科学部長、嶋田独立研究員、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡総括次長
2月4日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップフェア'92」に対する細部についての打ち合わせ会を行い、展示小間への搬入・搬出・会場当番等について決定
2月14日		ヨシヤ産業(株)社長　佐藤善也氏が病気のため急逝され桐生市斎場において葬儀がとりおこなわれ、会より花輪を贈るとともに、多数の会員が参列し葬儀副委員長の吉濱分科会長が故人のご功績に感謝し、会員を代表し哀悼の弔辞を捧げられた
2月20日～ 2月24日	渋川市　ニチイ渋川店	「クリーン・アップフェア'92」開催 本分科会の展示小間「PPMの世界」

平成4年度

開催年月日	開催場所	内容
平成4年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないように勤めた。
5月8日		平成3年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月12日	上毛会館	講習会 「土壌汚染対策について」 群馬県環境保全課　水質保全係長　内山課長補佐 「計量法による計量証明事業について」 群馬県計量検定所　飛田主幹
5月12日	上毛会館	第17回総会 平成3年度の事業報告、収支決算報告並びに平成4年度の事業計画、収支予算等の承認 来賓:群馬県環境保全課　細野課長、内山水質保全係長、群馬県衛生環境研究所　飯塚副所長、秋山環境科学部長、群馬県計量検定所　萩原所長、松岡総括次長、飛田主幹 総会終了後、懇親会
7月7日		技術委員会の公的試験研究機関・施設見学について、関根技術委員長、佐藤専務理事と群馬県林業試験場を訪問し、8月の見学について内諾を受けた。
7月9日		技術委員会の公的試験研究機関・施設見学について、関根技術委員長、佐藤専務理事と群馬県農業総合試験場を訪問し、11月の見学について内諾を受けた。
7月14日		環境分科会技術委員会の関根委員長が作成した「スギ、ヒノキの樹幹を流れる雨水について」等「酸性雨」に関する資料を分科会員事業所宛に送付
7月23日		「環境計量証明事業測定分析標準単価表の改定作業」を開始するため業務企画委員長名で「近県の標準料金表」と会員改定案について資料提出を依頼
9月1日		会報「計量群馬」を発刊し、「総会報告」並びに「新会員の紹介」、計量情報を掲載して会員に送付した
9月22日	群馬県計量検定所	業務企画委員会 「環協分析標準単価表」の最終検討・原稿作成
9月30日	群馬県計量検定所	「環境分析標準単価表」原案について技術委員会及び業務企画委員会の検討概況を説明し、協議検討の結果、最終原案を決定し1000部の印刷を発注
10月13日	群馬県計量検定所	(社)日本環境測定分析協会関東支部主催による「環境セミナー第4回関東甲信越大会」に対する分

		科会の協力体制及び分科会員の参加方法について協議 群馬県衛生環境研究所で行う「群馬県民の日・環境教室」に対しての協力についての申し合わせ
10月16日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'93」開催委員会に吉濱分科会長が出席
10月22日～ 10月23日	前橋市　群馬厚生年金会館	(社)日本環境測定分析協会関東支部主催、本分科会の当番 「日環協セミナー第4回関東甲信越大会」開催 記念講演 「環境測定分析業務積算資料について」 (社)日本環境測定分析協会　谷学副会長 「環境が魚類に及ぼす影響」 群馬県水産試験場　堀賢平場長 「地球サミットとその後の環境問題について」 環境庁　地球環境部　調査官　一方井誠治 第2日目は2会場に分かれて環境測定分析事例発表
12月15日	県庁西会議用庁舎第7会議室	「クリーン・アップフェア'93」開催委員会・浄化槽部会に新井業務企画委員長と佐藤専務理事が出席
平成5年1月12日	群馬県計量検定所	「クリーン・アップフェア'93」に協賛して展示小間「PPM の世界」により環境計量証明事業の PR に努めることを協議
1月20日	群馬県衛生環境研究所	公開講演会 「見て分かる生物による水質判定－「生命＝ケイソウ」に富む河川－」 横浜市環境研究所　福嶋悟
1月21日	群馬県庁西庁舎第1会議室	「クリーン・アップフェア'93」出展者説明会が開催され、主管課の廃棄物対策課担当者より「実施マニュアル」等の内容説明と協力依頼があった 新井業務企画委員長と佐藤専務理事が出席
1月22日	群馬県衛生環境研究所	研究発表会 「烏川上流における水質と珪藻について」 群馬県衛生環境研究所　環境科学部　関口独立研究員 関根技術委員長から技術委員会の8月(群馬県林業試験場)、11月(群馬県総合農業試験場)の受講内容・見学概要について資料の配布と報告があった 「クリーン・アップフェア'93」への協力について新井業務企画委員長から細部の要請があった
1月22日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県廃棄物対策課　長野課長、群馬県衛生環境研究所　飯塚所長、林水質課長、関口独立研究員、群馬県計量検定所　松岡総括次長　内田課長

2月4日～ 2月5日	栃木県藤原町鬼怒川温泉　鬼怒川グリーンパレス	北関東環境測定機関連絡協議会 各県団体の活動表京の報告 日環協の活動状況の報告に基づき情報交換
2月10日～ 2月14日	伊勢崎市　(株)いせや・いせさき店	「クリーン・アップフェア'93」開催 本分科会の展示小間「PPM の世界」
3月11日	群馬県計量検定所	「測定分析料金標準単価表」の取り扱いについての協議 水道水の分析に係る厚生省関係法規の改正にともなう情報交換 佐藤専務理事から計量協会の中における環境分科会の運営特別会計の取り扱いについて事務局案の説明、協議の上承認 柴田浄化槽委員長から、群馬県における「排水総量規制」変更等に関する変更と、実施時期についての情報提供 平成5年の通常総会について協議の上、5月18日(火)に開催することとした。





平成5年度

開催年月日	開催場所	内容
平成5年4月1日		計量証明事業者は、計量法の規定に基づき、知事宛に事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤のないように勤めた。
5月7日		平成4年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月18日	上毛会館	第18回総会 平成4年度の事業報告、収支決算報告並びに平成5年度の事業計画、収支予算等の承認 来賓:群馬県環境保全課　栗原課長、廃棄物対策課　長野課長、群馬県衛生環境研究所　飯塚副所長、秋山環境科学部長、群馬県計量検定所　松岡所長、内田課長 総会終了後、懇親会
7月21日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」開催計画についての委員会が開催され新井業務企画委員長が出席
7月23日		「環境計量証明事業測定分析標準単価表の改定作業」を開始するため業務企画委員長名で、「近県の標準料金表」と会員改定案について資料提出を依頼した
8月26日	群馬県計量検定所	「新法施行にともなう指達事項」について計量検定所長の指導を受けた 「群馬県クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」への協力、「環境事業者・厚生年金制度」の加入促進、分科会「研修旅行計画」等の協議、新規追加環境基準項目を現(平成4年度)標準料金表に加えることを申し合わせた
9月1日		会報「計量群馬」を発刊し、「総会報告」並びに「新会員の紹介」、計量情報を掲載して会員に送付した
9月20日～ 9月21日	長野県松本市	「信州博'93」の研修見学会 同夜、学校共済・浅間温泉「みやま荘」に宿泊し、「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」の分科会の展示小間のテーマについて協議
9月30日	群馬県立医療短大	群馬県衛生環境研究所主催の公開講演会 「地質汚染の諸問題」 千葉県水質保全研究所　地質環境研究室長　楡井久
10月5日	群馬会館第5会議室	「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」開催委員会浄化槽部会が開催され、開催計画、資金計画、展示物等の協議がなされ、新井業務企画委員長が出席した

10月19日	群馬県計量検定所	業務企画委員会 「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」への協賛について協議 展示計画については技術委員会に検討を依頼することとした
10月27日	群馬県計量検定所	新規加入会員(トーシルテクノサービス(株)、(有)アライ計量事務所、(株)環境分析センター)3社の紹介と各会員からの挨拶 「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」展示小間等の細部を打ち合わせ、メインタイトルを「環境を守る測定」とすることを決定 群馬県環境白書の研修会期日、技術委員会の中間報告がなされた
11月11日～ 11月12日	つくば市・筑波山ホテル「青木屋」	(社)日本環境測定分析協会主催による北関東測定機関連絡会 「計量法施行令並びに規則の解説」、(社)日本環境測定分析協会関東支部の活動状況、各県単事業の活動状況について協議
11月11日～ 11月15日	桐生市 (株)長崎屋桐生店	「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」開催 本分科会の展示小間「環境を守る測定」
11月24日	群馬県婦人会	「群馬県環境白書」研修会 群馬県環境衛生部 環境保全課 栗原課長
平成6年1月26日	上毛会館	環境分科会 特別公演 「陝西省との合同痴呆調査から」 群馬県立佐波病院 第2診療部長 武井満 「新計量法の概要」「環境証明事業に関する改正概要」 群馬県計量検定所 松岡所長、内田検定第二課長
1月26日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県廃棄物対策課 長野課長、群馬県計量検定所 松岡所長 内田検定第二課長、群馬県衛生環境研究所 伊藤所長、飯塚副所長、嶋田大気課長、林水質課長
3月14日	群馬県計量検定所	群馬県環境保全課の実施した「分析事業者のアンケート調査」に関連し、業界の今後の対応について協議 群馬県水質保全係から送付された「土壌環境基準の一部改正、土壌環境基準の検液の作成法方及び測定方法について」を会員に配布 廃棄物対策課より通知のあった「平成6年度の浄化槽法定検査(11条検査)の実施地区及び区域」について、浄化槽委員会員に配布
3月22日	群馬県衛生環境研究所	「平成5年度衛生環境研究所業績発表会」に多数の会員が出席し、16項目にわたる研究成果を受講
3月25日		群馬県環境保全課から通知のあった「クロルニトロフェン(CNP)」に関する環境庁通達資料について、会員宛てにFAX送付

平成6年度

開催年月日	開催場所	内容
平成6年4月1日		計量器の製造、修理、証明事業者は、計量法の規定に基づき、通商産業大臣または、知事宛てに事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤の無いようにつとめた
5月10日		環境分科会平成5年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月17日	上毛会館	第19回総会 平成5年度の事業報告、収支決算報告並びに平成6年度の事業計画、収支予算等の承認 来賓:群馬県環境局　環境保全課　飯塚課長、生活環境課　高橋課長補佐、群馬県衛生環境研究所　伊藤前所長、原副所長、秋山環境科学部長、群馬県計量検定所　松岡所長、内田検定第二課長
7月6日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」開催結果報告ならびに収支決算報告と「クリーン・アップフェア'94」開催計画案、収支予算案についての開催委員会が開催され、環境分科会の吉濱会長が出席
7月29日		大和設備工事(株)の創立50年記念事業として環境に関する記念講演会「地球環境と経済社会の今後」が開催され多数の会員が聴講に参加
8月22日	群馬県計量検定所	「新計量法の施行による各社の検査規程・細則の見直し、改定」 群馬県計量検定所　松岡所長 1.「クリーン・アップフェア'94」への協賛について 2.「北関東環境測定機関連絡協議会」開催当番について検討 「分析料金標準単価表」の作成については諸般の状況から中止
9月1日		会報「計量群馬」を発刊し、「総会報告」並びに「新会員の紹介」、計量情報を掲載して会員に送付
9月20日	群馬会館第4会議室	「クリーン・アップフェア」開催委員会浄化槽部会に環境分科会の業務企画委員の新井委員長が出席し、「94　IN　とみおか」の開催計画・資金計画等が示された
10月3日		日本環境測定分析協会本部、関東支部、茨城県、栃木県、近県に対して、「関東北3県環境測定機関連絡協議会」の開催通知を発送
10月20日	富岡市　富岡保健所	「クリーン・アップフェア　'94　IN　とみおか」出展者説明会に新井業務企画委員長が出席し、会場案内、「実施マニュアル」等の最終指示があった

10月21日	群馬県計量検定所	①「関東北3県環境測定機関連絡協議会」の開催当番について ②「クリーン・アップフェア ’94 IN とみおか」への協賛について等について協議
10月25日		群馬県環境保全課 飯塚課長の実母の葬儀に際し、会より香典を贈り弔意を表した
11月8日	群馬県衛生環境研究所	6年度第2回懇話会 「神流湖の水質について」 水質課 藤波技師 「水道水中の塩素イオン検査の精度管理結果について」 食品化学課 小沢主任 「樹木の生理について」 群馬県林業試験場 近藤研究部長
11月14日	上毛会館	「群馬県環境白書」研修会 群馬県環境局 環境政策課 宮崎課長
11月17日～ 11月21日	富岡市 (株)キンカ堂富岡店	「クリーン・アップフェア ’94 IN とみおか」開催 本分科会の展示小間「環境を守る測定」
11月21日～ 11月22日	伊香保町 伊香保観山荘	北関東環境測定機関連絡協議会 (社)日本環境測定分析協会関東支部の活動状況、各県単事業の活動状況について協議 新計量法の施行にともなう「事業規程・細則」等の改定に関する各県の状況把握 来賓:群馬県計量検定所 松岡所長、(社)日本環境測定分析協会 北村哲、鷺
12月6日	群馬県衛生環境研究所	6年度第3回懇話会 「前橋市のイネ科花粉飛散時期における花粉症患者調査について」 長寿科学課 斎藤百代技師 「近年群馬県で分離されたインフルエンザウィルスA(H_3N_2)の血清学的性状」 ウィルス課 大淵正枝技師 「がんと免疫のやさしい話」 群馬大学医療技術短期大学部 倉茂達徳教授
平成7年1月27日	上毛会館	特別公演 「群馬県における環境放射能について」 群馬県衛生環境研究所 安村説夫独立研究員
1月27日	上毛会館	新年会 来賓:群馬県環境衛生研究所 大月所長、原副所長、秋山環境科学部長、安村独立研究員、群馬県衛生環境部 飯塚環境保全課長、高橋生活環境課長、群馬県計量検定所 松岡所長、内田検定第二課長
2月14日		浄化槽委員事業所に対し、群馬県環境局長名の「平成7年度の浄化槽法定検査(11条検査)の実施地区並びに区域」について通知を送付

2月27日		群馬県計量検定所　飛田主幹の実父の葬儀に際して、会より花輪を贈り弔意を表した
3月10日	群馬県衛生環境研究所	平成6年度衛生環境研究所業績発表会 8項目にわたる研究成果を13名の研究者から受講



平成7年度

開催年月日	開催場所	内容
平成7年4月1日		計量器の製造、修理、証明事業者は、計量法の規定に基づき、通商産業大臣または、知事宛てに事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤の無いようにつとめた
5月12日		平成6年度収支決算について新井、浅川両監事による監査
5月19日	上毛会館	第20回総会 平成6年度の事業報告、収支決算報告並びに平成7年度の事業計画、収支予算等の承認 総会終了後、懇親会
6月12日		佐藤前専務理事を慰労
6月22日		群馬県衛生環境研究所の特別講習会を受講
7月14日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'94 IN とみおか」開催結果報告ならびに収支決算報告と「クリーン・アップフェア'95 IN ぬまた」開催計画案、収支予算案についての開催委員会が開催され、吉濱会長が出席
7月18日		オーナー会議 研修見学会の実施について協議
9月14日		「群馬県クリーン・アップ フェア開催委員会浄化槽部会」に業務企画委員会の新井委員長が出席し、「クリーン・アップ フェア'95 IN ぬまた」の開催計画・資金計画等が示された
10月4日～ 10月5日	京都府 島津製作所	研修見学会 島津製作所三条工場で分析機器類について研修 環境分科会の世話役として活躍された江崎氏が環境技研を退社され、この送別慰労を兼ねた
10月11日	沼田市 沼田サティ	「クリーン・アップフェア'95 IN ぬまた」の出展者説明会に新井業務企画委員長が出席
11月9日～ 11月10日	茨城県大洗町	北関東環境測定機関連絡協議会
11月9日～ 11月13日	沼田市 沼田サティ	「クリーン・アップフェア'95 IN ぬまた」開催 本分科会の展示小間「環境を守る測定」
11月16日～ 11月17日		環境計量証明事業所に対する国の立ち入り検査が行われ、群馬分析センターおよびアライ計量事務所が受検
12月15日		計量法研修会及び技術委員会を開催し、立ち入り検査結果を研修

平成8年1月25日	上毛会館	群馬県衛生環境研究所の環境問題に関する研究成果を受講 新年互例会
3月19日	群馬県衛生環境研究所	業績発表会



平成8年度

開催年月日	開催場所	内容
平成8年4月1日		計量器の製造、修理、証明事業者は、計量法の規定に基づき、通商産業大臣または、知事宛てに事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤の無いようにつとめた
5月16日		平成7年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月20日	上毛会館	第21回総会 平成7年度の事業報告、収支決算報告並びに平成8年度の事業計画、収支予算等の承認 総会終了後、懇親会
6月17日		理事会 研修見学会の実施、クリーン・アップフェアへの参画について協議
7月18日	群馬県庁正庁の間	「クリーン・アップフェア'95 IN ぬまた」開催結果報告ならびに収支決算報告と「クリーン・アップフェア'96 IN まえばし」開催計画案、収支予算案についての開催委員会が開催され、環境分科会の吉濱分科会長が出席
8月6日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　第1回公開講演会
8月12日		全国浄化槽技術委員会の案内を浄化槽委員宛に送付
8月27日		中小企業事業団開催の「ISO 14000シリーズへの対応について」の講習会案内を会員宛て周知
9月19日		首都圏環境連秋季研修会案内を会員宛て送付
9月20日		埼玉県環境計量協会研究発表会に3名参加
10月8日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　第2回公開講演会に3名出席
10月17日～ 10月18日		研修見学会 つくば市　資源環境技術総合研究所を研修
10月24日～ 10月25日	栃木県　湯西川	北関東環境測定機関連絡会が栃木県　湯西川で開催され、6名が出席
11月29日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
平成9年1月30日	上毛会館	群馬県衛生環境研究所の環境問題に関する研究成果を受講 新年互例会

2月14日～ 2月16日	前橋市　前橋サティ	「クリーン・アップフェア'96 IN　まえばし」開催 本分科会の展示小間「環境を守る測定」
2月18日	群馬県計量検定所	計量法上の諸手続き及び事業規程並びに標準供給制度について群馬県計量検定所から研修 濃度計分科会長と意見交換
2月26日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　業績発表会に多数受講
3月3日		群馬分析センター　高橋社長の実父告別式に弔意を表した
3月4日		(社)日本環境測定分析協会関東支部から新任者教育開催についてのアンケートがあり回答



平成9年度

開催年月日	開催場所	内容
平成9年4月1日		計量器の製造、修理、証明事業者は、計量法の規定に基づき、通商産業大臣または、知事宛てに事業報告の提出の義務があるので会員に報告用紙を送付して、過誤の無いようにつとめた
4月21日	群馬県計量検定所	第1回理事会 平成9年度の通常総会議案について協議
5月12日		JQA 移動検定があり各社受検
5月16日		平成8年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月20日		東京都環境計量協議会20周年記念式典に会長が出席
5月21日	上毛会館	第22回総会 平成8年度の事業報告、収支決算報告並びに平成9年度の事業計画、収支予算等の承認 役員については全員留任、委員会の見直しについては理事会協議 総会終了後、懇親会
5月28日		埼玉県環境計量協議会20周年記念行事に会長が出席
6月11日		理事会(オーナー会議)を開催し、委員会については業務企画委員会を総務企画委員会とし、浄化槽委員会は継続し、委員長に新井由雄氏とした 3県当番会議及び8年度技術委員会成果品等について協議した
6月12日		利根川おもしろフェスティバル企業コーナー出展(地球にやさしい環境展)依頼があったが不参加
7月11日		総務企画委員会 3県会議の概要説明と準備工程、役割分担について協議
7月18日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所の第1回公開講演会に6名参加
7月31日		公害防止ハンドブックの作成概要が示されたので、各社希望部数を取りまとめ環境保全課長に報告
9月26日		3県会議現地調査(ホテル・ダム・昼食場所)
10月3日		3県会議最終打ち合わせを開催し、日程役割分担等を決めた

10月23日～ 10月24日	水上町　ホテル聚楽	北関東環境測定機関連絡会 翌日、奈良俣ダム地下施設の見学
10月28日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　第2回公開講演会に9名参加
11月22日		群馬県計量検定所　飛田課長告別式に分科会として花輪を出した
11月28日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
12月20日		群馬県計量検定所　内田課長実父告別式に花輪を出した
平成10年1月26日	上毛会館	群馬県衛生環境研究所の環境問題に関する研究成果を受講 新年交歓会
2月4日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　第3回公開講演会に9名参加
2月16日		県の中小企業景気対策及び地方分権、規制緩和等今後の計量行政について、計量検定所から研修 平成10年度行事計画案の説明
2月28日		計量協会元副会長　横山昇氏告別式に分科会より花輪を出した
3月5日		公害防止ハンドブックの納期、単価等を知らせた
3月10日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所　業績発表会に15名受講
3月23日		「公害防止ハンドブック」が着荷し、各社へ引き取り連絡した
3月26日		計量法に基づく年度報告用紙を送付した

平成10年度

開催年月日	開催場所	内容
平成10年4月1日		協会員に、(株)環境アシスト及び(株)エコセンターが入会した
4月22日	群馬県計量検定所	第1回理事会 平成10年度の通常総会議案について協議
5月1日		平成9年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月18日		JQA 移動検定があり各社受検
5月19日	上毛会館	第23回総会 平成9年度の事業報告、収支決算報告並びに平成10年度の事業計画、収支予算等の承認及び役員改選について協議 総会終了後、懇親会
6月11日	茨城県潮来町	北3県会議
6月30日		ハンドブック増刷　申し込み会員に受領方通知 追加数305部
7月31日		平成10年度環境測定分析統一精度管理調査への参加について、環境保全課から依頼があり、実績のない各社に送付した
9月11日	天津小湊	研修見学会 パーキンエルマージャパン アクアライン 誕生寺 航空科学博物館
10月30日		群馬県薬務課から「毒物劇物等の適正な保管管理等の徹底について」依頼があり全会員に FAX
11月26日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
平成11年1月25日	上毛会館	「環境ホルモンについて」 群馬県衛生環境研究所　大谷大気課長 新年交歓会 12月をもって退職した内田書記に慰労金を贈与
3月2日		正副会長会議を開催し、会長・副会長について協議
3月12日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所の業績発表会に環境分科会員が15名受講

3月26日		計量法に基づく年度報告用紙を送付







平成11年度

開催年月日	開催場所	内容
平成11年4月22日		環境フェスティバル準備委員会が開催され吉濱会長が出席した
5月11日		平成10年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月18日～ 5月19日		JQA 移動検定があり各社受検
5月19日	上毛会館	理事会及び第24回総会 平成10年度の事業報告、収支決算報告並びに平成11年度の事業計画、収支予算案の承認 総会終了後、懇親会
6月15日		総務企画委員会 環境フェスティバル対応等協議
7月22日～ 7月23日	栃木県日光市	北3県会議　浅川会長ほか14名が出席
8月25日		環境フェスティバル実行委員会が開催
8月23日～ 8月24日	水上町	日本環境測定分析協会関東支部役員会
10月19日		環境フェスティバル出展説明会が開催
10月21日～ 10月22日	横浜市	日本環境測定分析協会関東支部セミナー 東京・神奈川の当番
11月4日～ 11月5日	山梨県	日本環境測定分析協会関東支部地区連絡協議会
11月6日～ 11月7日	新県庁舎	環境フェスティバルが開催され、保全課ブースに出展した
11月19日		当番で開催する日本環境測定分析協会関東支部セミナー会場（群馬厚生年金会館）の下見
11月24日		新県庁及び衛生環境研究所の見学会を兼ねて、群馬県環境白書について、環境政策課長から研修
平成12年1月25日	群馬厚生年金会館	「電気伝導度を指標とする廃棄物埋立地の浸出水の環境モニタリング」 群馬県衛生環境研究所　水質課　齋藤明男主任 新年交歓会
1月28日		茨城県環境分析協会25周年記念誌発刊パーティーに浅川会長が出席した

2月25日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所業績発表会に12名が出席
3月1日		11条検査の実施時期等について浄化槽委員会から通知した
3月9日～ 3月10日		日本環境測定分析協会関東支部役員会に浅川会長、星会員が出席した
3月13日		浄化槽委員会から浄化槽適正管理推進幹事会の結果を会員に通知
3月15日		環境フェスティバル実行委員会が開催され、決算報告及び12年度の開催計画(案)が発表された
3月23日		計量法に基づく年度報告用紙を送付した



平成12年度

開催年月日	開催場所	内容
平成12年4月28日		北関東3県及び日本環境測定分析協会関東支部環境セミナーの当番をひかえての総務企画委員会を開催
5月18日～ 5月19日		JQA 移動検定があり各社受検
5月24日		環境分科会平成11年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月24日	群馬厚生年金会館	理事会及び第25回総会 平成11年度の事業報告、収支決算報告並びに平成12年度の事業計画、収支予算案の承認 総会終了後、懇親会
6月30日		総務企画委員会
8月3日～ 8月4日	群馬厚生年金会館	日本環境測定分析協会関東支部研修会
8月24日～ 8月25日	草津町　一井	北3県会議
9月27日		(株)インフォマテックヨシヤ佐藤社長の実母が逝去され、分科会員一同の弔電及び花輪を献花した
10月4日～ 10月5日	群馬厚生年金会館	日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー
10月15日	群馬県庁	環境フェスティバル
11月28日		日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー精算のため、打ち合わせを行った(浅川、茂木、星、松岡、荻野)
11月30日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
12月4日		微量物質に係る計量法改正のため、計量行政審議会情報を送付
12月7日～ 12月8日	栃木県益子町	日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー反省会
12月14日		環境保全ハンドブックの作成及び申し込みについて連絡し、合計1030部を環境保全課長に申し込みした
平成13年1月17日		浄化槽法定検査の実施区域等について送付

1月30日	群馬厚生年金会館	「河川水から分離された細菌によるビスフェノールAの分解－分解過程におけるエストロゲンレセプター結合能の変化－」 群馬県衛生環境研究所　大気課長　大谷仁己
2月2日		浄化槽保守点検業者名簿を入手したので、新井浄化槽委員長から各社供覧とした
2月16日		3月20日に群馬県衛生環境研究所業績発表かが開催される旨案内分を送付
2月26日		極微量物質等の計量法改正の骨子について情報を送付した
3月12日		浄化槽指導要綱等の改正及びハンドブックの配本予定について連絡
3月30日		計量法に基づく年度報告用紙を送付





平成13年度

開催年月日	開催場所	内容
平成13年4月24日		理事会を開催し収支決算及び予算案の審議、役員改選、30周年記念誌発刊、研修見学会の実施等を審議
4月24日		平成12年度収支決算について新井、関根両監事による監査
5月17日	群馬厚生年金会館	理事会及び第26回総会 平成12年度の事業報告、収支決算報告並びに平成13年度の事業計画、収支予算案の承認 総会終了後、懇親会
5月18日		JQA 移動検定があり各社受検
6月15日		極微量物質統計量法改正に係る情報を周知した
6月19日		研修見学会について旅行会社と打ち合わせ
7月5日～ 7月6日	茨城県北茨城市	北関東3県会議 浅川、星、根岸、大塚、佐藤、松岡、青木が出席した
8月28日		30周年記念誌発刊委員会を開催
8月29日		環境フェスティバル実行委員会に浅川会長が出席した
9月6日		特定計量証明事業に関する政令の官報を送付
9月13日～ 9月14日	山梨県環境科学研究所	研修見学会
9月30日	群馬県庁	環境フェスティバルが開催され、環境保全ブースに出展
10月4日		特定計量教習に関し、官報公告を連絡
11月28日	群馬県計量検定所	計量法公布50周年記念式典等が開催され、(株)群馬分析センターが知事表彰を受けたほか熊木修一、星正敏、新井由雄、篠原和人の4氏が(社)群馬県計量協会会長表彰を受けた
12月13日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
平成14年1月15日		特定計量教習に関し、官報公告を連絡

1月24日	前橋東急イン	「法改正ダイオキシン類に係る特定計量証明事業等」の研修 群馬県計量検定所
1月24日		ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に関する暫定指針の一部改正について概要を会員に送付
2月7日		旧衛生環境研究所　氏家所長から、30周年記念誌掲載原稿の送付があったので、会員にも周知
2月8日		2月26日に衛生環境研究所業績発表会が開催される旨案内文を送付し、出席者について衛生環境研究所へ連絡した
2月12日		計量証明書に表示するロゴマーク・ゴム印希望を取り、作成配布
2月25日		平成14年度の浄化槽法定検査の実施地区について浄化槽委員に連絡
3月14日		計量証明書に表示するロゴマークの印刷等について事業団に用紙を送付するよう浄化槽委員に連絡
3月29日		計量法に基づく年度報告用紙を送付





平成14年度

開催年月日	開催場所	内容
平成14年4月24日		平成13年度収支決算について新井、関根両監事による監査
4月24日		理事会を開催し収支決算並びに14年度事業計画及び収支予算案の審議、30周年記念誌発刊、研修見学会の実施等を審議
5月15日	群馬県計量検定所	30周年記念誌発刊委員会を開催
5月15日	群馬厚生年金会館	第27回総会 平成13年度の事業報告、収支決算報告並びに平成14年度の事業計画、収支予算案の承認 総会終了後、懇親会
5月16日～ 5月17日		JQA 移動検定があり各社受検
9月6日		特定計量証明事業に関する政令の官報を送付
9月6日～ 9月7日	(財)新潟環境衛生研究所	研修見学会
9月19日～ 9月20日	神戸	日本環境測定分析協会全国セミナー
10月7日	群馬県庁	環境フェスティバル説明会
10月8日～ 10月9日	軽井沢	日本環境測定分析協会関東支部セミナー
10月27日	群馬県庁	環境フェスティバルが開催され、環境保全ブースに出展
11月7日～ 11月8日	栃木県　那須	北関東3県会議
11月26日		計量記念日事業の一環として講習会、会長表彰が行われた 「群馬の野鳥」 浅川会長
11月29日		「群馬県環境白書」研修会 環境政策課　岡野次長
12月12日		浄化槽保守点検事業者名簿
平成15年1月29日	ウェルシティ前橋	「大気、雨水、植物葉表面のニトロフェノール」 群馬県衛生環境研究所　大谷課長 新年交歓会

2月6日		平成14年度の浄化槽法定検査の実施地区について浄化槽委員に連絡
3月14日	群馬県衛生環境研究所	群馬県衛生環境研究所の業績発表会に希望会員が参加
3月31日		計量法に基づく年度報告用紙を送付





平成15年度

開催年月日	開催場所	内容
平成15年4月22日		平成14年度収支決算について監査が行われたほか、理事会を開催し収支決算の承認及び15年度事業計画、北関東3県連絡協議会当番開催、30周年記念事業を審議
5月19日～ 5月20日	群馬県計量検定所	JQA 移動検定があり各社受検
5月20日	ウェルシティ前橋	第28回総会 理事会案件の承認を得た後、懇親会を開催
9月5日	群馬県庁	環境フェスティバル出展説明会があり、同月9日実行委員会が行われ会長出席
9月12日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会を開催し、17年度発動予定のBOD検査受託に向けて今後毎月開催することとした
9月17日～ 9月18日	水上町	北関東3県会議 講演　群馬県衛生環境研究所長 翌日、玉原地下発電所の見学
9月21日	群馬県庁	環境フェスティバルが開催され、環境保全課ブースに出展
10月18日～ 10月19日	富岡市	暮らしの計量展　3月7日まで各地での開催
10月23日	箱根湯本	日本環境測定分析協会関東支部セミナー
11月4日		(有)吾妻分析センターが入会
11月13日～ 11月14日	静岡県	日本環境測定分析協会全国セミナー
11月17日		佐藤前専務を見舞った
11月25日		佐藤前専務死去
12月12日	群馬県庁	「群馬県環境白書」研修会 環境政策課長
平成16年1月29日	ウェルシティ前橋	BOD分析業務受託のため臨時総会を開催 「あふれる窒素はどこへ」 群馬県衛生環境研究所　矢島主任 新年交歓会

3月4日		臭気測定のできる会員調査を行い、環境保全課に提出
3月7日		新田町くらしの計量展を最後に15年度計画を終了（16年度は実施せず）
3月8日		群馬県衛生環境研究所業務発表会案内を全会員に送付
3月25日		浄化槽設置等事務処理要領の一部改正通知を会長、浄化槽委員長にコピーを渡した
3月30日		BOD問題について、会長、浄化槽委員長、新井副委員長が廃棄物政策課に試料収集案を提出した







平成16年度

開催年月日	開催場所	内容
平成16年4月22日	群馬県計量協会	平成15年度収支決算の監査。 理事会を開催し、収支決算の承認、及び平成16年度事業計画、収支予算案等について審議。
5月12日	ウェルシティ前橋	第29回通常総会 懇親会
5月18日～ 5月19日	群馬県計量検定所	JQA 及び計量検定所による移動検定検査があり各社受検
10月5日		土壌汚染対策法対応講演会が開催され、会員が多数出席した
10月10日	群馬県庁	第6回ぐんま環境フェスティバルが開催され、環境保全課ブースに参画し、環境計量制度のPR活動を行った
11月9日～ 11月10日	水戸市	日環協環境セミナー開催 分科会員、笹尾専務理事、松岡前専務理事が参加
11月22日	群馬県庁	環境白書研修会 終了後第2回理事会開催
11月25日	群馬県食品安全検査センター	食品検査に係る講演会及び交換会が開催され、会員が多数出席した
11月26日	群馬会館ホール	「シックハウス症候群」などの化学物質過敏症に関するシンポジウムが開催され、会員が多数出席した
平成17年1月26日	ウェルシティ前橋	群馬県保健・福祉・食品局保健予防課　真鍋課長による「室内空気汚染と健康障害」について研修 終了後、新年交換会
2月3日～ 2月4日	茨城県つくば市	北三県環境測定機関連絡会 会員及び笹尾専務理事が参加
3月10日	群馬県計量協会	松倉計量協会長、浅川環境分科会長、笹尾専務理事が分科会の規約等について協議
3月18日	群馬県衛生環境研究所	平成16年度群馬県衛生環境研究所業績発表会が開催され、会員多数が出席した
3月24日		平成16年度事業実績報告書用紙を送付 「環境保全ハンドブック」作成に係る作成案内及び購入希望数を関係者に通知

平成17年度

開催年月日	開催場所	内容
平成17年4月6日		浄化槽に関する「新制度導入報告会」が開催され会長が出席した
4月20日	群馬県計量協会	平成16年度収支決算の監査。 第1回理事会を開催し、収支決算の承認、及び平成17年度事業計画、収支予算案等について審議。
4月22日	群馬県計量協会	第1回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
5月12日	ウェルシティ前橋	第30回通常総会 懇親会
5月18日～ 5月19日	群馬県計量検定所	JQA 及び計量検定所による移動検定検査があり各社受検
6月24日	群馬県計量検定所	第2回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
7月27日	群馬県計量検定所	第3回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
8月26日	群馬県計量検定所	第4回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
9月1日～ 9月2日	愛知県	研修見学会 愛知万博等
9月10日		第2回理事会（書面表決による） 「環境分科会表彰規程」を採決
9月26日		平成17年度版「環境保全ハンドブック」発刊
9月30日	群馬県計量検定所	第5回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
10月2日	群馬県庁	第7回ぐんま環境フェスティバルが開催され、環境保全課ブースに参画し、環境計量制度のPR活動を行った
10月13日	埼玉県さいたま市	日環協環境セミナー開催 分科会員多数が参加
10月26日	群馬県計量検定所	第6回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
11月17日～ 11月18日	栃木県	北三県環境測定機関連絡会
11月30日	群馬県庁	第7回総務企画委員会。終了後環境白書研修会。 終了後、第3回理事会。

平成18年1月19日	ウェルシティ前橋	衛生環境研究所 山口独立研究員による「空中散布による有機リン系農薬暴露と生体内での代謝」について研修 終了後、新年交歓会
1月19日	ウェルシティ前橋	第8回総務企画委員会、第4回理事会
2月28日	群馬県計量検定所	第9回総務企画委員会、第5回理事会 30周年記念誌編集会議
3月14日	群馬県計量検定所	第10回総務企画委員会 30周年記念誌編集会議
3月17日	群馬県衛生環境研究所	平成17年度群馬県衛生環境研究所業績発表会が開催され、会員多数が出席した
3月28日	群馬県計量検定所	第11回総務企画委員会

技術委員会記録

昭和63年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和63年8月2日	群馬県計量検定所	環境計量士から要望のあった、技術委員会の設置について検討の結果設置が了承され、次回の研究発表会(8月19日予定)の終了後検討することが申し合わせられた。
8月19日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 テーマ「定量下限値と有効数値の統一について」 委員長:浅川千佳夫　副委員長:新井由雄
12月8日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 会員事業所からアンケートを提出してもらうことが申し合わされ、その様式を定め配布
12月22日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 アンケート集計作業、資料の不明があり至急再提出を要請
平成元年2月17日	群馬県衛生公害研究所	第4回技術委員会
3月10日	群馬県衛生公害研究所	第5回技術委員会

平成元年度

開催年月日	開催場所	内容
平成元年4月15日	群馬県計量検定所	技術委員会 「定量下限値と有効数字の統一について」最終取りまとめ
7月6日	群馬県計量検定所	技術委員会 今年度のテーマ「分析工数の検討」
7月31日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」について調査方法等の協議
9月22日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」について協議
11月16日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」について協議
12月7日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」について協議

平成2年度

開催年月日	開催場所	内容
平成2年4月10日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」についての作業開始
4月27日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数の検討」についての協議
7月23日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数表」の作成について協議
8月27日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数表」作成の協議
10月1日	群馬県計量検定所	技術委員会 「分析工数表」と「分析料金」の関連についての協議
10月26日	(株)群馬分析センター	技術委員会 「分析工数表」と「分析料金」の関連についての協議
平成3年1月23日	群馬県衛生公害研究所	技術委員会 「分析工数」と「分析料金」との関連性についての総括検討

平成3年度

開催年月日	開催場所	内容
平成3年6月21日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 ヨシヤ産業　新井由雄委員長、パリノ・サーヴェイ駿河英一副委員長の選任 開催日は毎月第3金曜日 テーマ「基準値の調査とデータベース化について」
7月26日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 「基準値の調査とデータベース化について」検討協議
8月23日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 「データベースのデモについて」検討協議
9月26日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 「データベースのデモについて」検討協議
10月18日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 「データベースのデモについて」協議
11月25日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会 「基準値データベース入力について」協議
12月13日	群馬県計量検定所	第7回技術委員会 「データベースシステムの操作マニュアルの文書化

		について」協議
平成4年2月27日	群馬県計量検定所	技術委員会による今年度の研究課題である「基準値のデータベースについて」その利用方法について、パソコンによる研修会を行った

平成4年度

開催年月日	開催場所	内容
平成4年5月12日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 (株)環境科学コーポレーション　関根勇仁委員長、(株)パリノ・サーヴェイ　駿河英一副委員長の選任 開催日は毎月第3金曜日 今年度のテーマは「酸性雨」とし、県公共施設(試験場・研究所)の見学及び同所職員による「酸性雨」に関する研究等について受講することとした また、対象施設及び期日を群馬県林業試験場・8月、群馬県農業総合試験場・11月、群馬県衛生環境研究所・1月とする旨を申し合わせた
8月21日	群馬県林業試験場	技術委員会第1回公的機関見学 「スギ林に流入する酸性降下物について」 研究部長　近藤次雄 場内の見本林の見学
9月4日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 業務企画委員会からの依頼による「測定分析標準単価」と「作業工数」との関連について検討を行い「標準単価表」の原案を作成
11月20日	群馬県総合農業試験場	技術委員会　第2回公的機関見学 場内見学 「土壌と酸性雨」 第一環境部環境保全課　山田正幸独立研究員 「産業用ロボットを利用した自動把種機」の見学 「バイテク・生物工学」の研究概要について受講

平成5年度

開催年月日	開催場所	内容
平成5年4月23日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 環境科学コーポレーション　関根勇仁委員長、パリノ・サーヴェイ　熊木和弘副委員長、総合環境分析　荒井郁夫副委員長が選出 活動内容は「測定分析標準単価表」の追加項目の見直しと、分析測定の標準物質(重金属)の統一法

		について検討する
5月21日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 標準単価表の追加項目について各自社単価をFAXにて報告し、次回に単価を決定することとした 標準物質についても今後検討していくことを申し合わせた 関根委員長に代わり、6月から後任に環境科学コーポレーションの高橋行正氏が引き継ぐことが申し合わされた
6月25日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 標準単価表の見直しについて協議 各社からの有機塩素系の分析単価を提出してもらい検討して、他県(ブロック近県)の情報を参考にして7月末までに最終案を作成することとした
7月23日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 新規追加環境基準項目の標準価格を協議決定の上、この案を業務企画委員会に送ることとした また、標準物質(金属)のトレーサビリティーについて各社の標準品についてアンケート形式により情報収集することを申し合わせた
8月20日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 「重金属標準品のトレーサビリティ」について検討し、各社に配布した調査アンケートをまとめた資料により検討した 標準品は国等の検定品を使用し、群馬県内事業所の標準品の統一にもつながり、また、国の標準とのトレーサビリティも確立できる旨の結論を得た 次回活動テーマとして1．使用分析機器の物品管理について、2．1988年に作成した「定量下限値について」の資料の追加訂正を検討することを申し合わせた
9月17日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会 「計量証明登録設備の物品管理について」検討した物品管理表を作成し、各社同様の形式で物品管理を行うこととした
10月22日	群馬県計量検定所	第7回技術委員会 「クリーン・アップフェア'93 IN きりゅう」の計画について検討し、期間中の運営方法、パンフレットの内容について協議
11月26日	群馬県計量検定所	第8回技術委員会 「定量下限値と有効数字に関する統一表記について」88年度版の見直しについて協議
平成6年1月21日	群馬県計量検定所	第9回技術委員会 「定量下限値と有効数字に関する統一表記について」88年度版の見直しを行うこととし、最初に大気項目について検討

2月25日	群馬県計量検定所	第10回技術委員会 「肥料の登録制および届出の手引きについて」 (株)パリノ・サーヴェイ　熊木 「定量下限値と有効数字に関する統一表記について」の見直し作業 終了後、会場を藤岡市に移して技術委員会の懇親会
3月25日	群馬県計量検定所	第11回技術委員会 「定量下限値と有効数字に関する統一表記について」88年度版の見直しおよび標準単価表について検討

平成6年度

開催年月日	開催場所	内容
平成6年4月22日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 環境科学コーポレーション　高橋行正委員長、パリノ・サーヴェイ　熊木和弘副委員長、総合環境分析　荒井郁夫副委員長が選出 活動内容は「88年度版「定量下限値」の見直し」 委員会の開催を毎月第3金曜日
5月27日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 「当業界におけるパソコンを用いた情報通信の活用について」を活動テーマとすることを申し合わせた
6月24日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 パソコン通信の概要と利用について、委員の荒井氏を講師として 1. パソコン通信に必要な機器のセッティングについて 2. 民間のデータベースの利用について 3. 日本科学技術情報センター(JOIS)からの情報の検索方法について、等の研修
7月22日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 パソコン機器を持ち込み設置して、電話回線を利用し、実際に機器を操作しながらパソコン通信で科学技術情報を検索する技術の研修
8月26日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 1. パソコン通信について荒井委員から「パソコン通信を使っての科学情報データの入手方法について 2.「クリーン・アップフェア'94」の展示小間の企画について検討
9月20日	東京都　日本科学技術情報センター	技術委員会の事業として東京都の科学技術情報センターにおいて「科学技術情報の入手と活用利用について」研修を受講

10月7日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会 「クリーン・アップフェア ’94 IN とみおか」の展示・PR 方法、配布記念品等について協議
11月2日	群馬県計量検定所	第7回技術委員会 「クリーン・アップフェア ’94 IN とみおか」について 1. 展示小間の展示物 2. pH 測定に残留塩素の実験 3. PR 用パンフレットの内容と粗品の配布 4. 期間中の会場当番割り等について最終案の検討
12月16日	群馬県計量検定所	第8回技術委員会 「パソコン通信について」最終的なまとめと文章化
平成7年2月17日	藤岡市 芦田之庄	第9回技術委員会 「環境分科会事業所におけるパソコン利用方法」についてのまとめと「平成7年度テーマ」について協議 1案「県衛生環境研究所との共同研究」 2案「機器を用いての分析の自動化についての検討」の二案について平成7年度第1回の技術委員会において検討の上決定

平成7年度

開催年月日	開催場所	内容
平成7年4月5日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 パリノ・サーヴェイ 熊木和弘委員長、トーシルテクノサービス 渡辺純一郎副委員長が選出 活動内容は「分析機器の自動分析システム開発動向の調査」 委員会の開催を毎月第3金曜日
5月10日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 活動テーマについて協議
7月21日	群馬県計量検定所	技術委員会 活動テーマ及び研修見学会先について協議
8月25日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 活動テーマ第3回協議及び見学会について打ち合わせ
9月21日		技術委員会の事業として、研修見学会を実施した
10月13日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会 「クリーン・アップフェア’95 IN ぬまた」の展示・PR 方法、記念品等について協議
11月22日	群馬県計量検定所	技術委員会

平成8年2月23日	藤岡市　芦田之庄	第9回技術委員会

平成8年度

開催年月日	開催場所	内容
平成8年4月19日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 平成8年度の活動方針について協議 各種基準値作成を活動のテーマとした 委員会の開催日を毎月第3金曜日にすることが確認
6月21日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 活動テーマについて協議
7月19日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 活動テーマについて協議
8月23日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 活動テーマ「各種基準値（ハンドブック）」について 打ち合わせ
9月20日		技術委員会 研修見学会を実施
11月15日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会 活動テーマについて協議
12月11日	群馬県計量検定所	第7回技術委員会 活動テーマについて最終打ち合わせ
平成9年2月21日	富岡市　湯楽とみおか	第8回技術委員会

平成9年度

開催年月日	開催場所	内容
平成9年6月11日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 9年度テーマ「機器点検マニュアル」の作成について協議
7月11日	群馬県計量検定所	技術委員会 第2回活動テーマについて協議
9月12日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 活動テーマについて協議
10月17日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 活動テーマについて協議

11月14日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 活動テーマについて協議
平成10年2月13日	軽井沢　東芝保養所	環第6回技術委員会
3月13日	群馬県計量検定所	第7回技術委員会 10年度活動テーマについて協議し、「ISO 14000における環境分析の役割」とした

平成10年度

開催年月日	開催場所	内容
平成10年6月19日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 10年度テーマ「ISO　14000　における環境分析の役割」の作成について協議
7月10日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 活動テーマについて協議
9月18日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 活動テーマについて協議
10月16日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 活動テーマについて協議
11月20日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 活動テーマについて協議
平成11年2月26日	藤岡市　芦田之庄	第6回技術委員会

平成11年度

開催年月日	開催場所	内容
平成11年6月18日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 11年度テーマ「定量下限の見なおし」の作成について協議し、毎月第3金曜日開催とした
7月16日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 活動テーマについて協議
9月17日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 活動テーマについて協議
10月15日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 活動テーマについて協議
11月19日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 活動テーマについて協議

		当番で開催する日本環境測定分析協会関東支部セミナー会場(群馬厚生年金会館)の下見
平成12年2月18日	藤岡市　芦田之庄	第6回技術委員会

平成12年度

開催年月日	開催場所	内容
平成12年5月9日	群馬県計量検定所	技術委員(佐藤、中林、荒井)が平成11年度実績ファイルを作成
6月16日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 12年度テーマ「内分泌攪乱物質(環境ホルモン)」の作成について協議し、毎月第3金曜日開催とした
7月21日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会 活動テーマについて協議
9月22日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会 活動テーマについて協議
10月20日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会 活動テーマについて協議
11月21日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会 活動テーマについて協議
平成13年2月16日	藤岡市　芦田之庄	第6回技術委員会

平成13年度

開催年月日	開催場所	内容
平成13年6月22日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 13年度テーマ「クロスチェック」
7月13日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会
9月21日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会
10月25日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会
平成14年2月15日	藤岡市　芦田之庄	第5回技術委員会

平成14年度

開催年月日	開催場所	内容
平成14年6月21日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 活動テーマについて協議し、「土壌汚染対策法について」とした
7月19日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会
9月20日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会
10月18日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会
12月19日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会
平成15年2月14日	藤岡市　芦田之庄	第6回技術委員会

平成15年度

開催年月日	開催場所	内容
平成15年6月20日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 テーマを「クロスチェック」として活動
7月18日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会
8月29日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会
9月26日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会
10月17日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会
11月21日	群馬県計量検定所	第6回技術委員会
平成16年3月12日	ホテルコープシャトウ	最終の技術委員会 次期委員長は(株)環境技研の足立英則氏、副委員長に(株)環境分析センター　関根勇仁氏、(株)不二ケミカル　下山裕氏、 研究テーマは「不確かさの求め方」

平成16年度

開催年月日	開催場所	内容
平成16年6月18日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 テーマは「不確かさの求め方」
7月7日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会
9月17日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会
10月15日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会
11月19日	群馬県計量検定所	第5回技術委員会
平成17年2月25日	藤岡市　芦田之庄	第6回技術委員会が開催され「不確かさの求め方」の報告書が作成される 平成17年度委員長は(株)環境分析センター　関根勇仁氏、副委員長に(株)不二ケミカル　下山裕氏、(株)環境アシスト　石塚政和氏

平成17年度

開催年月日	開催場所	内容
平成17年6月17日	群馬県計量検定所	第1回技術委員会 テーマは「ISO/IEC 17025試験所認定制度」
7月15日	群馬県計量検定所	第2回技術委員会
9月16日	群馬県計量検定所	第3回技術委員会
10月21日	群馬県計量検定所	第4回技術委員会
平成18年2月17日	藤岡市　芦田之庄	第5回技術委員会が開催され「ISO/IEC 17025試験所認定制度の概要」の報告書が作成される 平成18年度委員長は(株)不二ケミカル　下山裕氏、副委員長に（株)環境アシスト　石塚政和氏、(株)ミツバ環境分析リサーチ　高木厚氏

浄化槽委員会記録

昭和59年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和59年5月15日	群馬県計量検定所	浄化槽法について
6月7日	群馬県計量検定所	浄化槽法関係の要望書案について
8月31日	群馬県計量検定所	浄化槽法関係要望書の件について

昭和60年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和60年6月25日	群馬県計量検定所	浄化槽排水の検査の要望書
8月22日	群馬県計量検定所	浄化槽法省令公布について
8月29日	群馬県計量検定所	BOD 技術委員会
10月3日	群馬県計量検定所	BOD 技術委員会
10月31日	群馬県計量検定所	浄化槽法施行について
11月8日	県庁西庁舎	浄化槽放流水の検査(環境衛生課)
11月12日	群馬県計量検定所	浄化槽放流水の塩素イオン検査
昭和61年1月10日	群馬県計量検定所	BOD 検体について
1月21日	群馬県衛生公害研究所	浄化槽専門委員会の設置
1月24日	県議会庁舎	(財)環境検査事業団との協議(環境衛生課)
1月28日	国体会議用庁舎	(財)環境検査事業団、浄化槽協会、分科会との浄化槽法運用についての協議(環境衛生課)
2月14日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会

2月18日	浄化槽保全協会事務局	浄化槽 BOD 検査について(環境衛生課)
2月27日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
3月7日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
3月22日	群馬県婦人会館	浄化槽委員会 浄化槽法の運用について(環境衛生課)

昭和61年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和61年4月1日	群馬県計量検定所	群馬県浄化槽指導要綱に基づく計量証明料金の周知について
4月2日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 事務処理(電算入力)に関する委託契約書案について
4月8日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 指導要綱及び保守点検実施要領の運用について (財)環境検査事業団との話し合いと情勢分析について
4月25日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 専門委員会規約(細則)案　関連事項の検討
5月13日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 事務処理協定書案について 委員会規約
6月18日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 電算処理協定書の検討・その他
7月14日	(財)群馬県公衆保健協会	浄化槽専門委員会 正副委員長会議
7月25日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 1. 環境衛生課より指導事項 2. 電算処理に関する協定書の検討
8月6日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 事務処理協定書の調印
8月22日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 事務処理協定書の結果報告
9月3日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 正副委員長会議
10月3日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 群馬県浄化槽指導要綱等の周知方について

昭和62年1月30日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 (財)環境検査事業団の第7条検査にともなうBOD検査について協議

昭和62年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和62年6月29日	群馬県計量検定所	浄化槽専門委員会 (財)群馬県環境検査事業団の第7条検査にともなうBOD分析の委託について
7月30日	群馬県衛生公害研究所	浄化槽専門委員会 放流水の塩素イオン測定に用いる「塩素イオンメーター」について
8月5日	群馬会館第1会議室	浄化槽放流水のBOD及び塩素イオン分析についての事業推進の協議
11月18日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 第11条検査に係るBOD分析依頼に対する情報交換について
昭和63年3月8日	群馬県婦人会館	浄化槽専門委員会 (財)環境検査事業団の第11条検査を補完するBOD検査について

昭和63年度

開催年月日	開催場所	内容
昭和64年3月30日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会 浄化槽法第11条検査改正案に対する協議検討を行い、分科会としての要望書を提出することを決議

平成元年度

開催年月日	開催場所	内容
平成元年4月26日		群馬県環境衛生課より依頼の「昭和63年度BOD等の検査実績件数の調査」について、会員宛に報告方を依頼
6月16日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会 「浄化槽法の改正について」の近況及び情報交換
平成2年3月3日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会 浄化槽法改正の動向についての情報、放流水の

		BOD 分析料金に係る会員間の相互調整等についての協議

平成9年度

開催年月日	開催場所	内容
平成10年3月12日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会 群馬県環境検査事業団　高橋専務理事を招いて浄化槽検査について懇談し、あわせて今後の活動計画について協議

平成11年度

開催年月日	開催場所	内容
平成11年6月22日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会正副委員長会議を開催
8月3日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会を開催

平成14年度

開催年月日	開催場所	内容
平成15年1月17日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会を開催し、(財)群馬県環境検査事業団の高橋専務から「浄化槽行政をめぐる最近の動向」について説明

平成15年度

開催年月日	開催場所	内容
平成15年10月10日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
11月7日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
12月9日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会

平成16年1月16日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
1月20日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会において、今後当分の間毎月第2、第4火曜日開催とした
2月10日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
2月24日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
3月9日	群馬県計量検定所	浄化槽委員会
3月16日	群馬県計量検定所	最終の浄化槽委員会を開催日を変更して実施

平成16年度

開催年月日	開催場所	内容
平成16年4月13日	群馬県計量検定所	平成16年度第1回浄化槽委員会 今年度は「効率化11条検査」に係る業務委託が中心テーマ
4月27日	群馬県計量検定所	第2回浄化槽委員会
5月11日	群馬県計量検定所	第3回浄化槽委員会
5月26日	群馬県計量検定所	第4回浄化槽委員会
6月8日	群馬県計量検定所	第5回浄化槽委員会
7月7日	群馬県計量検定所	第6回浄化槽委員会
7月15日	群馬県計量検定所	第7回浄化槽委員会
8月10日	群馬県計量検定所	第8回浄化槽委員会
9月7日	群馬県計量検定所	第9回浄化槽委員会
10月7日	群馬県計量検定所	第10回浄化槽委員会
11月11日	群馬県計量検定所	第11回浄化槽委員会

11月15日	群馬県計量検定所	第12回浄化槽委員会
11月29日	群馬県計量検定所	第13回浄化槽委員会
12月14日	群馬県計量検定所	第14回浄化槽委員会
12月21日	群馬県計量検定所	第15回浄化槽委員会
平成17年1月18日	群馬県計量検定所	第16回浄化槽委員会
2月1日	群馬県計量検定所	第17回浄化槽委員会
3月3日	群馬県計量検定所	第18回浄化槽委員会
3月22日	群馬県計量検定所	第19回浄化槽委員会が開催され、「効率化11条検査」業務委託契約を(財)群馬県環境検査事業団と個別契約を行った
3月28日	群馬県計量検定所	第20回浄化槽委員会

平成17年度

開催年月日	開催場所	内容
平成17年4月12日	群馬県計量検定所	平成17年度第1回浄化槽委員会
4月28日	群馬県計量検定所	第2回浄化槽委員会
5月20日	群馬県計量検定所	第3回浄化槽委員会
6月8日	群馬県計量検定所	第4回浄化槽委員会
7月5日	群馬県計量検定所	第5回浄化槽委員会
8月9日	群馬県計量検定所	第6回浄化槽委員会
9月27日	群馬県計量検定所	第7回浄化槽委員会
10月18日	群馬県計量検定所	第8回浄化槽委員会

11月29日	群馬県計量検定所	第9回浄化槽委員会
12月19日	群馬県計量検定所	第10回浄化槽委員会
平成18年1月24日	群馬県計量検定所	第11回浄化槽委員会
2月28日	群馬県計量検定所	第12回浄化槽委員会
3月28日	群馬県計量検定所	第13回浄化槽委員会

技術発表会記録

研究発表　昭和52年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和52年5月13日	日本環境測定分析協会 常務理事　後藤　孝	環境計量事業者の現況
5月30日	(株)環境分析センター 岩崎　隆昌	「日本近海海洋汚染実態調査における有害物質の微量分析について」
7月20日	ヨシヤ産業(株) 小林　透	「BOD 測定の現状と問題点」
9月29日	(株)不二ケミカル 森口　宰吉・山崎　百々代	「総水銀分析上の問題点」
11月22日	(株)群馬環境技研 川口　勝・石井　雅子	「流出汚泥の BOD 測定値に与える影響について」
昭和53年3月20日	(株)群馬県し尿浄化槽 維持管理高崎センター 浅川　千佳夫	「綿貫団地プラント放流水の水質変動」
	群馬県衛生研究所 原　研究員	「下水汚泥の緑農地利用の可能性と問題点」

研究発表　昭和53年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和53年5月22日	瑞晃化学(株) 青島　功	「環境計量(大気)の問題点について」
7月24日	東京三洋電機(株) 上原　武正	「油分測定における JIS 法と油分計の比較」 「飲料水中の懸濁物の調査」 「フッ素イオンの金魚及び鯉に対する影響調査結果」
9月25日	日本重化学工業(株) 中央研究所 中山　義博	「六価クロム分析方法の検討」
	群馬県衛生研究所 内山　技師	「還元物質共存時におけるクロム(VI)の吸光光度定量法」
11月20日	群馬県衛生研究所 内山　技師	「BOD、六価クロム、トータルクロムのクロスチェックの結果発表」
	(株)群馬環境技研 川口　勝	「植種液の馴致度が及ぼすBOD測定値への影響」 「植種量の相違が及ぼすBOD測定値への影響」
昭和54年1月17日	群馬県衛生研究所 原　研究員	「BOD、六価クロム、トータルクロムのクロスチェックの結果発表」
	ヨシヤ産業(株) 小林　透	「分析時の誤差の出来方について」

研究発表　昭和54年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和54年5月25日	(株)環境分析センター 根岸　栄	「BOD、COD 及び TOC の共同実験について」
7月20日	(株)不二ケミカル 下山　親一	「プログラム電卓 PC1300による計算例」
	群馬県衛生研究所 内山　技師	「蛍光増白剤」について」
9月28日	瑞晃化学(株) 大島　功	「大気測定結果について」
	群馬県衛生研究所 原　研究員	「硝化菌数について」
11月30日	東京三洋電機(株) 上原　武正	「ひ素の原子吸光光度分析について」
昭和55年1月22日	(株)群馬環境技研 川口　勝	「簡易分析法および公定分析法による測定値の相関性について」

研究発表　昭和55年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和55年4月11日	ヨシヤ産業(株) 小林　透	「検量線の下限」
7月24日	(株)群馬分析センター 阿部　一浩	「JIS K 0101のシアン分析についての一考察」
10月21日	(株)環境分析センター 関根　勇仁	「富栄養化指標の藻類培養試験について」
昭和56年1月27日	(株)柴田建材店 柴田　道夫	「原子吸光分析について」
	群馬県衛生研究所 原　研究員	「尾瀬沼の富栄養化に及ぼす人為要因の解明」

研究発表　昭和56年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和56年5月20日	群馬大学講師 上林　邦充	「国民の健康の保全と法規制」
	群馬大学教授 和田　政	「金属の生体作用」
	群馬県衛生公害研究所 氏家　淳雄	「つつが虫病その他について」
11月27日	(株)群馬環境技研 永井　憲作	「騒音・振動についての問題事例」

	群馬県計量検定所 藤田　次長	「通産省工業品検査所の行う立入検査について」
昭和57年2月8日	群馬県衛生公害研究所 内山　主任	「トリハロメタンについて」

研究発表　昭和57年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和57年5月27日	高崎市立経済大学教授 理学博士　舟橋説往	「藻類の生態学について」
7月20日	群馬県公害課参事 栗原　順太郎	「環境白書を中心に公害問題について」
10月29日	(株)柴田建材店 柴田　道夫	「埋立地浸出水の水質分析について」
11月26日	ヨシヤ産業(株) 佐藤　善也	「馥郁たるかおり　C_9H_9N　副題　三点比較式臭袋法について」
昭和58年1月25日	群馬県衛生公害研究所 原研究員	「尾瀬沼底質の性状」

研究発表　昭和58年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和58年4月22日	東京三洋電機㈱ 上原　計量士	「水俣病原因究明の10年について」
6月30日	群馬県衛生公害研究所 氏家　所長	「医学雑感」
10月28日	瑞晃化学(株) 神田　良男	「ボイラーの窒素酸化物について」
昭和59年1月23日	群馬県衛生公害研究所 関口　主任	「関東地方の酸性雨について」

研究発表　昭和59年度

開催年月日	発　表　者	テーマ
昭和59年4月24日	(株)環境分析センター 根岸　栄	「酵素法による食品分析方法の開発について」 (魚類の鮮度)
10月11日	(株)群馬環境技研 川口　勝	「活性汚泥好気性硝化について」
昭和60年1月22日	群馬県衛生公害研究所 独立研究員　内山征洋	「塩素有機物質の環境汚染について」

研究発表　昭和60年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
昭和60年4月25日	(株)不二ケミカル 下山　親一	「BOD とパソコンについて」
9月18日	ヨシヤ産業(株) 佐藤　善也	「環境汚染による植物遷移と遷都」
昭和61年1月21日	(株)群馬分析センター 植原　政彦	「BOD 試料に銅イオンが含まれた場合の対処について」
	群馬県衛生公害研究所 氏家　所長	「温泉の効用」

研究発表　昭和61年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
昭和61年7月7日	パリノ・サーヴェイ(株) 徳永　重元	「花粉化石と古環境について」
10月27日	(財)群馬県公衆保健協会　原田 賢治	「微生物の環境汚染」
昭和62年1月21日	瑞晃化学(株) 中曽根 聡	「菌の違いによる BOD 値への影響について」
	群馬県衛生公害研究所 嶋田　独立研究員	「前橋を中心とする地域の大気の移動について」

研究発表　昭和62年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
昭和62年7月30日	㈱環境分析センター 星　正敏	「放射化分析とその応用」
11月24日	㈱群馬環境技研 佐藤　松次	「希土類について」
昭和63年1月27日	日本重化学工業㈱中央研究所　見持　洋司	「天然水中の金属錯化容量」について
	群馬県衛生公害研究所 原　生活環境部長	「尾瀬沼のコカナダモ」について

研究発表　昭和63年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
昭和63年8月19日	㈱群馬分析センター 佐藤　修	「発熱量について」
10月7日	瑞晃化学(株) 中曽根　聡	「保存条件による BOD 値変化について」
平成元年1月30日	群馬県衛生公害研究所 嶋田　好孝	「高濃度オキシダント時における風系について」

研究発表　平成元年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成元年7月20日	パリノ・サーヴェイ(株) 中根　秀二	「糟糠(発酵米ぬか)の植物に対する害に関する栽培試験報告について」
10月20日	日本重化学(株)中央研究所　酒井　謙吉	「共同抽出を利用した血清中の微量元素の黒鉛炉原子吸光分析について」
平成2年1月25日	(財)群馬県健康づくり財団　　熊木　修	「溶存酸素計(DO 計)使用時における気圧補正について」
	群馬県衛生公害研究所 中島　穂泉	「自動車交通にともなう交通騒音について」

研究発表　平成2年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成2年5月11日	群馬県公害課 清水　弘志	「群馬県環境白書の概要について」
6月14日	群馬県公害課 内山　征洋	「ゴルフ場における農薬問題等」について
平成3年1月23日	(株)環境科学コーポレーション群馬試験部 高平　健一	「FIA 装置による NH_4-N の定量」
1月23日	群馬県衛生公害研究所 大谷　仁己	「有機塩素化合物の生分解(微生物分解)」

研究発表　平成3年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成3年7月26日	ヨシヤ産業(株) 新井　由雄	「計量業務の解析作業について」

11月20日	群馬県公害課 中島　信義	「群馬県環境白書」について」
平成4年1月24日	群馬県衛生公害研究所 嶋田　独立研究員	「降雨前後における浮遊粉塵量の濃度変化について」

研究発表会　平成4年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成4年5月12日	群馬県環境保全課 内山課長補佐	「土壌汚染対策について」
8月21日	群馬県林業試験場 所長　近藤次雄	「スギ林に流入する酸性降下物について」
10月22日	日環協 副会長　谷学	「環境測定分析業務積算資料について」
	群馬県水産試験場長 堀　賢平	「環境が魚類に及ぼす影響」
	環境庁　地球環境部 調査官　一方井　誠治	「地球サミットとその後の環境問題について」
11月20日	群馬県総合農業試験場 第一環境部環境保全課 山田　正幸	「土壌と酸性雨」
平成5年1月22日	群馬県衛生環境研究所 環境科学部 関口　独立研究員	「烏川上流における水質と珪藻について」

研究発表会　平成5年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成5年9月30日	千葉県水質保全研究所 地質環境研究室長 楡井　久	群馬県衛生環境研究所主催の公開講演会 「地質汚染の諸問題」
11月24日	群馬県環境衛生部　環境保全課　栗原課長	「群馬県環境白書」研修会
1月26日	群馬県立佐波病院　第2診療部長　武井満	環境分科会　特別公演 「陝西省との合同痴呆調査から」
1月26日	群馬県計量検定所 松岡所長、内田検定第二課長	「新計量法の概要」「環境証明事業に関する改正概要」
2月25日	パリノ・サーヴェイ(株) 熊木和弘	「肥料の登録制および届出の手引きについて」

研究発表会　平成6年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成6年11月8日	群馬県衛生環境研究所 水質課　藤波技師	「神流湖の水質について」
	群馬県衛生環境研究所 食品化学課　小沢主任	「水道水中の塩素イオン検査の精度管理結果について」
	群馬県林業試験場 近藤研究部長	「樹木の生理について」
11月14日	群馬県環境局 環境政策課　宮崎課長	「群馬県環境白書」研修会
12月6日	群馬県衛生環境研究所 長寿科学課 斎藤百代技師	「前橋市のイネ科花粉飛散時期における花粉症患者調査について」
	群馬県衛生環境研究所 ウィルス課 大淵正枝技師	「近年群馬県で分離されたインフルエンザウィルスA（H_3N_2）の血清学的性状」
	群馬大学医療技術短期 大学部　倉茂達徳教授	「がんと免疫のやさしい話」
平成7年1月27日	群馬県衛生環境研究所 安村説夫独立研究員	「群馬県における環境放射能について」

研究発表会　平成7年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
	群馬県環境政策課長	「環境白書」研修会
平成8年1月25日	群馬県衛生環境研究所 演者　不明	環境問題に関する研究　　演題不明

研究発表会　平成8年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成8年11月29日	群馬県環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成9年1月30日	群馬県衛生環境研究所	環境問題に関する研究

研究発表会　平成9年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成9年11月28日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成10年1月26日	群馬県衛生環境研究所	環境問題に関する研究

研究発表会　平成10年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成10年11月2日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成11年1月25日	群馬県衛生環境研究所 大谷大気課長	「環境ホルモンについて」

研究発表会　平成11年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成11年11月2日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修
平成12年1月25日	群馬県衛生環境研究所 水質課　齋藤明男主任	「電気伝導度を指標とする廃棄物埋立地の浸出水の環境モニタリング」

研究発表会　平成12年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成12年11月30	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成13年1月30日	群馬県衛生環境研究所 大気課長　大谷仁己	「河川水から分離された細菌によるビスフェノールAの分解－分解過程におけるエストロゲンレセプター結合能の変化－」

研究発表会　平成13年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成13年12月1日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成14年1月24日	群馬県計量検定所	「法改正ダイオキシン類に係る特定計量証明事業等」

研究発表会　平成14年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成14年11月2日	㈱群馬分析センター 浅川　千佳夫	「群馬の野鳥」
11月29日	環境政策課　岡野次長	「群馬県環境白書」研修会
平成15年1月29日	群馬県衛生環境研究所 大谷課長	「大気、雨水、植物葉表面のニトロフェノール」

研究発表会　平成15年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成15年12月1日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成16年1月29日	群馬県衛生環境研究所 矢島主任	「あふれる窒素はどこへ」

研究発表会　平成16年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成16年11月22日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成17年1月26日	群馬県保健・福祉・食品局保健予防課　真鍋課長	「室内空気汚染と健康障害」

研究発表会　平成17年度

開催年月日	発 表 者	テーマ
平成17年11月30日	環境政策課長	「群馬県環境白書」研修会
平成18年1月19日	衛生環境研究所　山口独立研究員	「空中散布による有機リン系農薬暴露と生体内での代謝」

歴代役員等名簿

検定所長・会長等

役員

委員会





歴代所長・会長等 S49～H17

元号（西暦）	計量検定所長	計量協会長	環境分科会長	専務理事	会員数	環境計量等のあゆみ	群馬県の動き	社会の動き
昭和49年（1974）	横森　茂樹	安藤　賢一		三木　健		計量法改正。環境計量証明事業、環境計量士等決まる。	群馬の森に近代美術館会館。	
昭和50年（1975）	横森　茂樹	安藤　賢一		三木　健（S56.3.24亡）		計量制度100周年を記念し、国を始め全国で行事開催。 環境計量証明事業登録開始。		沖縄海洋博覧会開催。
昭和51年（1976）	乙部　秀夫	安藤　賢一	斉藤　信太郎	横森　茂樹	8	騒音計、濃度計など環境計量器の検査始まる。 環境分科会創立。	福田内閣総理大臣誕生。	アメリカの人工衛星バイキング一号火星に軟着陸。
昭和52年（1977）	乙部　秀夫	安藤　賢一	斉藤　信太郎	横森　茂樹	10	振動規制法制定。		我が国の人口、戦後生まれ過半数となる。
昭和53年（1978）	乙部　秀夫	安藤　賢一	斉藤　信太郎	横森　茂樹	11			新国際空港（成田）開港。
昭和54年（1979）	乙部　秀夫（H9.5.26亡）	安藤　賢一	斉藤　信太郎	横森　茂樹	11		歴史博物館開館。	
昭和55年（1980）	佐藤　安信	安藤　賢一	斉藤　信太郎	横森　茂樹	11		県立女子大開学。	
昭和56年（1981）	佐藤　安信	安藤　賢一（H4.2.21亡）	斉藤　信太郎	横森　茂樹	11	計量制定30周年記念行事開催。	文化県群馬宣言。	ポートピア神戸ポート・アイランド博覧会開催。
昭和57年（1982）	佐藤　安信	堀口　吉七（H14.9.12亡）	斉藤　信太郎	横森　茂樹	11		上越新幹線開通（大宮・新潟間）。中曽根内閣総理大臣誕生。	
昭和58年（1983）	佐藤　安信	鈴木　賢三	斉藤　信太郎 吉村　國度	横森　茂樹	11	分科会長斉藤信太郎氏S58.10.12死亡	あかぎ国体・愛の赤城大会開催。	
昭和59年（1984）	佐藤　安信	鈴木　賢三（H14.8.2亡）	吉村　國度	横森　茂樹（H14.11.7 亡）	11			

歴代所長・会長等 S49～H17

元号（西暦）	計量検定所長	計量協会長	環境分科会長	専務理事	会員数	環境計量等のあゆみ	群馬県の動き	社会の動き
昭和60年（1985）	藤田　孟司（たけし）	横田　初英（はつえい）	吉濱　和夫	佐藤　安信	11	大気汚染対策法施行令等の一部改正（ばい煙発生施設に小型ボイラーを追加）。	上越新幹線上野乗り入れ。群馬県民の日設定。エフエム群馬放送開始。 日航機墜落（上野村）。	つくば科学万国博覧会開催。
昭和61年（1986）	藤田　猛司	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	11		初の名誉県民に長谷川四郎氏。	伊豆大島三原山二百年ぶりの大噴火。
昭和62年（1987）	大山　恒雄	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	12		２人目の名誉県民に土屋文明氏。生涯学習センター開設。	
昭和63年（1988）	萩原　信一	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	12		群馬ヘリポート開設。計量検定所庁舎完成移転。	
平成元年（1989）	萩原　信一	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	13	水質汚濁防止法および同施行令の一部改正。 大気汚染防止法の一部改正。	第3セクターわたらせ渓谷鉄道誕生。	消費税制発足。
平成2年（1990）	萩原　信一	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	14		３人目の名誉県民に福田赳夫氏。ぐんまこどもの国児童館開館。	
平成3年（1991）	萩原　信一	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	13	近代的計量制度が確立され100年目にあたり、「計量百年記念行事」が開催。	奈良俣ダム完成。上越新幹線東京駅乗り入れ。ふれあいプラザ（赤堀町）開設。	雲仙普賢岳で大火災流発生。
平成4年（1992）	萩原　信一	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	14	国際化・技術革新・消費者利益の視点から「新計量法」公布（H4.5.20）。	４人目の名誉県民に福沢一郎氏。ぐんまフラワーパーク開園。	
平成5年（1993）	松岡　小十郎	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信	14	「新計量法」施行（H5.11.1）。11.1を計量記念日と改めた。		北海道南西沖地震発生（津波、火災による大被害）。毛利衛日本人初の宇宙へ。
平成6年（1994）	松岡　小十郎	横田　初英	吉濱　和夫	佐藤　安信（H15.11.25亡）	17	水質汚濁防止法施行令の一部改正（有害物質に13項目追加）。	向井千秋さん日本発の女性飛行士となる。	阪神・淡路大震災起こり大惨事となる。東京地下鉄サリン事件発生。
平成7年（1995）	清水　寛（ひろし）	横田　初英	吉濱　和夫	松岡　小十郎	17	大気汚染防止法改正（特定粉じんとして石綿規制等）	尾瀬保護財団発足	

歴代所長・会長等 S49～H17

元号 （西暦）	計量検定所長	計量協会長	環境分科会長	専務理事	会員数	環境計量等のあゆみ	群馬県の動き	社会の動き
平成8年 (1996)	清水　寛	横田　初英	吉濱　和夫	松岡　小十郎	17	群馬県計量協会法人化。	自然史博物館開館。	
平成9年 (1997)	長谷川　奉彦（ともひこ）	横田　初英	吉濱　和夫	松岡　小十郎	17			
平成10年 (1998)	長谷川　奉彦	横田　初英	吉濱　和夫	松岡　小十郎	19		小渕内閣総理大臣誕生	第18回冬季オリンピック大会が長野市で開催。
平成11年 (1999)	長谷川　奉彦	横田　初英	浅川　千佳夫	松岡　小十郎	20	法定計量単位が国際体系（SI）へ全面移行。ダイオキシン類対策特別法施行。	群馬県庁舎完成。前橋大島駅開設。ぐんま天文台オープン。	茨城県東海村の民間ウラン加工施設で臨界事故発生。
平成12年 (2000)	青木　正（まさし）	横田　初英	浅川　千佳夫	松岡　小十郎	20	地方分権の推進に伴い、計量行政が機関委任事務から法定受託事務と自治事務に規定された。	手数料条例の制定。	三宅島噴火。島民避難。第27回オリンピックがシドニーで開幕。
平成13年 (2001)	青木　正	横田　初英	浅川　千佳夫	松岡　小十郎	21	中央省庁再編（通商産業省が経済産業省）となる。計量研究所が独立行政法人産業技術総合研究所となる。	第16回国民文化祭開催。	
平成14年 (2002)	笹尾　利昭	横田　初英	浅川　千佳夫	松岡　小十郎	21	大気濃度計の検査始まる。 大気汚染対策法施行。		
平成15年 (2003)	笹尾　利昭	松倉　重昭	浅川　千佳夫	松岡　小十郎	22	計量協会が指定定期検査機関となる。「はかり」の検査業務を開始。	万場町、中里村のが合併により神流町誕生。観音山ファミリーパーク開園。	火星が地球に大接近（約5,600万km）。
平成16年 (2004)	剣持　文彦	松倉　重昭	浅川　千佳夫	笹尾　利昭	23	大気汚染防止改正法公布（VOC排出抑制制度）。	浅間山小噴火。新潟中越地震発生。	第28回オリンピックがアテネで開催され空前のメダルラッシュとなる。
平成17年 (2005)	茂木　雅夫	松倉　重昭	浅川　千佳夫	笹尾　利昭	25	計量制度の抜本見直し始まる（計量行政審議会）。	尾瀬冬季国体開催。 市町村合併で39市町村になる。	愛知万博（愛・地球博）開催。

歴代役員

昭和51年		
会長	斉藤　信太郎	株式会社群馬環境技研
副会長	松本　史郎	株式会社環境分析センター

昭和58年		
会長	吉村　國度	株式会社環境分析センター
副会長	佐藤　善也 塚田　邦雄	ヨシヤ産業株式会社 株式会社群馬分析センター

昭和60年		
会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
副会長	北脇　敏彦 塚田　邦雄	株式会社環境分析センター 株式会社群馬分析センター

平成2年		
会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
副会長	佐藤　善也 高橋　牧克	ヨシヤ産業株式会社 株式会社群馬分析センター

平成4年		
会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
副会長	佐藤　緋佐子 高橋　牧克	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社群馬分析センター

平成7年		
会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
副会長	佐藤　緋佐子 高橋　牧克	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社群馬分析センター
理事	本田　正 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 家崎　智 井田　保之 佐藤　泰造	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団 関東電化産業株式会社 トーシルテクノサービス株式会社

平成11年		
名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター

副会長	根岸　栄 原　善彦	株式会社環境科学コーポレーション 財団法人群馬県健康づくり財団
理事	佐藤　緋佐子 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 羽鳥　毅 大泉　洋	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 トーシルテクノサービス株式会社
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成12年		
名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副会長	広瀬　昇 原　善彦	株式会社環境科学コーポレーション 財団法人群馬県健康づくり財団
理事	佐藤　緋佐子 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 石渕　喜範 大泉　洋 新井　常夫	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 株式会社テルム 株式会社環境技研
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成13年		
名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副会長	広瀬　昇 原　善彦	株式会社環境科学コーポレーション 財団法人群馬県健康づくり財団
理事	佐藤　緋佐子 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 石渕　喜範 大泉　洋 新井　常夫	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 株式会社テルム 株式会社環境技研
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成14年		
名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター

副会長	高橋　春雄 原　善彦	株式会社環境科学コーポレーション 財団法人群馬県健康づくり財団
理事	佐藤　緋佐子 新井　常夫 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 石渕　喜範 篠原　和人	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 株式会社テルム
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター
日環協理事	星　正敏	株式会社環境技研

平成15年

名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副会長	中西　昇 篠原　和人	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社テルム
理事	佐藤　緋佐子 川口　勝 新井　宗雄 下山　親一 柴田　正三 川端　勇 加藤　征一郎	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター
日環協理事	星　正敏	株式会社環境技研

平成16年

名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副会長	中西　昇 篠原　和人	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社テルム
理事	佐藤　弘之 川口　勝 新井　宗雄 下山　親一 佐藤　留治 川端　勇 加藤　征一郎	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター
日環協理事	星　正敏	株式会社環境技研

平成17年		
名誉会長	吉濱　和夫	株式会社群馬環境技研
会長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副会長	中西　昇	株式会社環境科学コーポレーション
理事	佐藤　弘之 川口　勝 新井　宗雄 下山　裕 佐藤　留治 高橋　正欣 加藤　征一郎	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社瑞晃化学 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 関東電化産業株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団
監査	新井　由雄 関根　勇仁	有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター
日環協理事	星　正敏	株式会社環境技研

歴代委員（技術委員会）

昭和62年		
委員長	浅川　千佳夫	株式会社群馬分析センター
副委員長		
委員	新井　由雄 星　正敏 川口　勝 上原　武正	ヨシヤ産業株式会社 株式会社環境分析センター 株式会社群馬環境技研 三洋電機株式会社

平成3年		
委員長	新井　由雄	ヨシヤ産業株式会社
副委員長	駿河　英一	パリノ・サーヴェイ株式会社
委員	関根　勇仁 川口　勝 浅川　千佳夫 上原　武正 柴田　正三 荒井　郁夫	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 シバタ環境科学株式会社 株式会社総合環境分析

平成4年		
委員長	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
副委員長	駿河　英一 荒井　郁夫	パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析
委員	佐藤　竜馬 星　正敏 浅川　千佳夫 福島　孝志 柴田　正三	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 シバタ環境科学株式会社

平成5年		
委員長	高橋　行正	株式会社環境科学コーポレーション
副委員長	熊木　和弘 荒井　郁夫	パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析
委員	佐藤　竜馬 星　正敏 浅川　千佳夫 福島　孝志 新井　由雄	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 有限会社アライ計量事務所

平成6年		
委員長	高橋　行正	株式会社環境科学コーポレーション
副委員長	熊木　和弘	パリノ・サーヴェイ株式会社

	荒井　郁夫	株式会社総合環境分析
委員	佐藤　竜馬 星　正敏 浅川　千佳夫 福島　孝志 新井　由雄 渡辺　純一郎 関根　勇仁	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 有限会社アライ計量事務所 トーシルテクノサービス株式会社 株式会社環境分析センター

平成7年		
委員長	熊木　和弘	パリノ・サーヴェイ株式会社
副委員長	荒井　郁夫 渡辺　純一郎	株式会社総合環境分析 トーシルテクノサービス株式会社
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 星　正敏 浅川　千佳夫 福島　孝志 新井　由雄 関根　勇仁	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成8年		
委員長	熊木　和弘	パリノ・サーヴェイ株式会社
副委員長	佐藤　竜馬 篠原　和人	株式会社インフォマテックヨシヤ トーシルテクノサービス株式会社
委員	高橋　行正 星　正敏 佐藤　修 福島　孝志 関　秀明 中林　栄一 荒井　哲雄 新井　由雄 関根　勇仁	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 株式会社総合環境分析 社団法人群馬県薬剤師会 大和設備工事株式会社 有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成9年		
委員長	篠原　和人	トーシルテクノサービス株式会社
副委員長	佐藤　竜馬 佐藤　修	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社群馬分析センター
委員	高橋　行正 星　正敏 木元　英哉 福島　孝志 熊木　和弘 関　秀明	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社不二ケミカル 三洋電機株式会社 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析

	中林　栄一 荒井　哲雄 新井　由雄 関根　勇仁	社団法人群馬県薬剤師会 大和設備工事株式会社 有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成10年		
委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
副委員長	佐藤　修 中林　栄一	株式会社群馬分析センター 社団法人群馬県薬剤師会
委員	高橋　行正 星　正敏 下山　裕 福島　孝志 熊木　和弘 関　秀明 荒井　哲雄 篠原　和人 新井　由雄 関根　勇仁	株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社不二ケミカル 三洋電機株式会社 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析 大和設備工事株式会社 トーシルテクノサービス株式会社 有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター

平成11年		
委員長	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
副委員長	中林　栄一 荒井　哲雄	社団法人群馬県薬剤師会 大和設備工事株式会社
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 星　正敏 下山　裕 福島　孝志 熊木　和弘 関　秀明 篠原　和人 新井　由雄 関根　勇仁 猿谷　昌史	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社不二ケミカル 三洋電機株式会社 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析 トーシルテクノサービス株式会社 有限会社アライ計量事務所 株式会社環境分析センター 株式会社テクノ・クローバ

平成12年		
委員長	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
副委員長	荒井　哲雄 関　秀明	株式会社ヤマト 株式会社総合環境分析
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 足立　英則 佐藤　修 下山　裕	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル

	福島　孝志	三洋電機株式会社
	熊木　和弘	パリノ・サーヴェイ株式会社
	篠原　和人	株式会社テルム
	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
	小沢　光男	株式会社環境アシスト
	猿谷　昌史	株式会社テクノ・クローバ

平成13年		
委員長	荒井　哲雄	株式会社ヤマト
副委員長	大塚　克弘	株式会社総合環境分析
	福島　孝志	三洋電機株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	高橋　行正	株式会社環境科学コーポレーション
	足立　英則	株式会社環境技研
	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	熊木　和弘	パリノ・サーヴェイ株式会社
	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
	篠原　和人	株式会社テルム
	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
	小沢　光男	株式会社環境アシスト
	猿谷　昌史	株式会社テクノ・クローバ

平成14年		
委員長	大塚　克弘	株式会社総合環境分析
副委員長	福島　孝志	三洋電機株式会社
	足立　英則	株式会社環境技研
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	高橋　行正	株式会社環境科学コーポレーション
	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	小畑　勝	パリノ・サーヴェイ株式会社
	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
	荒井　哲雄	株式会社ヤマト
	篠原　和人	株式会社テルム
	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
	小沢　光男	株式会社環境アシスト
	猿谷　昌史	株式会社テクノ・クローバ

平成15年		
委員長	福島　孝志	三洋電機株式会社
副委員長	足立　英則	株式会社環境技研

	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 関根　友規 下山　裕 小畑　勝 野田　猛 加藤　克之 荒井　哲雄 篠原　和人 小沢　光男 高木　厚	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社ヤマト 株式会社テルム 株式会社環境アシスト 株式会社テクノ・クローバ

平成16年		
委員長	足立　英則	株式会社環境技研
副委員長	関根　勇仁 下山　裕	株式会社環境分析センター 株式会社不二ケミカル
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 関根　友規 福島　孝志 小畑　勝 野田　猛 加藤　克之 荒井　哲雄 白石　実 石塚　政和 高木　厚	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社ヤマト 株式会社テルム 株式会社環境アシスト 株式会社テクノ・クローバ

平成17年		
委員長	関根　勇仁	株式会社環境分析センター
副委員長	下山　裕 石塚　政和	株式会社不二ケミカル 株式会社環境アシスト
委員	佐藤　竜馬 高橋　行正 足立　英則 松村　裕之 福島　孝志 小畑　勝 野田　猛 加藤　克之 荒井　哲雄 白石　実 高木　厚	株式会社インフォマテックヨシヤ 株式会社環境科学コーポレーション 株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 三洋電機株式会社 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社総合環境分析 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社ヤマト 株式会社テルム 株式会社ミツバ環境分析リサーチ

歴代委員（浄化槽委員会）

昭和62年		
委員長	柴田　正三	株式会社シバタ建材
委員	新井　由雄 川口　勝 浅川　千佳夫 新井　宗雄 下山　親一	ヨシヤ産業株式会社 株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 瑞晃化学株式会社 株式会社不二ケミカル

平成3年		
委員長	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
委員	川口　勝 浅川　千佳夫 新井　宗雄 下山　親一 熊木　修一	株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 瑞晃化学株式会社 株式会社不二ケミカル 財団法人群馬県健康づくり財団

平成5年		
委員長	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
副委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
委員	川口　勝 浅川　千佳夫 新井　宗雄 下山　親一 熊木　修一 池田　則雄	株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 瑞晃化学株式会社 株式会社不二ケミカル 財団法人群馬県健康づくり財団 社団法人群馬県薬剤師会

平成6年		
委員長	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
副委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
委員	川口　勝 浅川　千佳夫 新井　宗雄 下山　親一 熊木　修一 池田　則雄 新井　由雄	株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 瑞晃化学株式会社 株式会社不二ケミカル 財団法人群馬県健康づくり財団 社団法人群馬県薬剤師会 有限会社アライ計量事務所

平成10年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬 新井　宗雄	株式会社インフォマテックヨシヤ 瑞晃化学株式会社
委員	川口　勝 佐藤　修 下山　親一 柴田　正三	株式会社群馬環境技研 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社

	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	福島　英雄	関東電化産業株式会社
	関　秀明	株式会社総合環境分析
	池田　則雄	社団法人群馬県薬剤師会
	新井　忠男	大和設備工事株式会社

平成11年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	星　正敏	株式会社環境技研
	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
	下山　親一	株式会社不二ケミカル
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	福島　英雄	関東電化産業株式会社
	関　秀明	株式会社総合環境分析
	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
	本島　茂雄	株式会社エコセンター

平成12年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	星　正敏	株式会社環境技研
	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
	本島　茂雄	株式会社エコセンター

平成13年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	川口　勝	株式会社環境技研
	佐藤　修	株式会社群馬分析センター
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	中林　栄一	社団法人群馬県薬剤師会
	本島　茂雄	株式会社エコセンター
	安野　光一	昭和環境分析センター株式会社

平成15年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬 新井　宗雄	株式会社インフォマテックヨシヤ 瑞晃化学株式会社
委員	川口　勝 佐藤　修 下山　裕 佐藤　留治 清水　則幸 中林　栄一 本島　茂雄 安野　光一	株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社エコセンター 昭和環境分析センター株式会社

平成16年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬 新井　宗雄	株式会社インフォマテックヨシヤ 瑞晃化学株式会社
委員	川口　勝 佐藤　修 下山　裕 佐藤　留治 清水　則幸 中林　栄一 本島　茂雄 安野　光一 和田　英雄	株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル シバタ環境科学株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社エコセンター 昭和環境分析センター株式会社 株式会社本庄分析センター

平成17年		
委員長	新井　由雄	有限会社アライ計量事務所
副委員長	佐藤　竜馬 新井　宗雄	株式会社インフォマテックヨシヤ 瑞晃化学株式会社
委員	川口　勝 佐藤　修 下山　裕 藤井　博水 佐藤　留治 清水　則幸 野田　猛 中林　栄一 本島　茂雄 高木　厚 安野　光一 藤田　桂一 和田　英雄 片亀　光	株式会社環境技研 株式会社群馬分析センター 株式会社不二ケミカル 三洋電機株式会社 シバタ環境科学株式会社 財団法人群馬県健康づくり財団 株式会社総合環境分析 社団法人群馬県薬剤師会 株式会社エコセンター 株式会社ミツバ環境分析リサーチ 昭和環境分析センター株式会社 有限会社吾妻分析センター 株式会社本庄分析センター 株式会社環境評価機構

歴代委員(総務企画委員会)　注:平成9年度までは業務企画委員会

昭和51年	全会員で対応
昭和55年	業務連絡会として対応
昭和62年	標準料金設定委員会を設置(技術委員で対応)

平成2年		
委員長	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
副委員長	下山　親一	株式会社不二ケミカル
委員	新井　由雄	ヨシヤ産業株式会社
	川口　勝	株式会社群馬環境技研
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	井田　保之	関東電化産業株式会社

平成5年		
委員長	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
副委員長	下山　親一	株式会社不二ケミカル
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	星　正敏	株式会社環境技研
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	井田　保之	関東電化産業株式会社

平成9年		
委員長	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
副委員長	下山　親一	株式会社不二ケミカル
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	星　正敏	株式会社環境技研
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	福島　英雄	関東電化産業株式会社

平成10年		
委員長	星　正敏	株式会社環境技研
副委員長	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
	福島　英雄	関東電化産業株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	下山　親一	株式会社不二ケミカル
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団

平成11年		
委員長	茂木　昭次	株式会社群馬分析センター
副委員長	星　正敏	株式会社環境技研
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	高橋　春雄	株式会社環境科学コーポレーション
	下山　親一	株式会社不二ケミカル
	柴田　正三	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団

	福島　英雄	関東電化産業株式会社
	篠原　和人	トーシルテクノサービス株式会社

平成13年		
委員長	茂木　昭次	株式会社群馬分析センター
副委員長	星　正敏	株式会社環境技研
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	根岸　栄	株式会社環境科学コーポレーション
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	佐藤　留治	シバタ環境科学株式会社
	熊木　修一	財団法人群馬県健康づくり財団
	中野　恵子	関東電化産業株式会社
	篠原　和人	株式会社テルム

平成15年		
委員長	茂木　昭次	株式会社群馬分析センター
副委員長	星　正敏	株式会社環境技研
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	根岸　栄	株式会社環境科学コーポレーション
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	佐藤　留治	シバタ環境科学株式会社
	清水　則幸	財団法人群馬県健康づくり財団
	中野　恵子	関東電化産業株式会社
	篠原　和人	株式会社テルム

平成16年		
委員長	星　正敏	株式会社環境技研
副委員長	松村　裕之	株式会社群馬分析センター
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	中西　昇	株式会社環境科学コーポレーション
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	佐藤　留治	シバタ環境科学株式会社
	清水　則幸	財団法人群馬県健康づくり財団
	中野　恵子	関東電化産業株式会社
	篠原　和人	株式会社テルム

平成17年		
委員長	星　正敏	株式会社環境技研
副委員長	松村　裕之	株式会社群馬分析センター
	新井　宗雄	瑞晃化学株式会社
委員	佐藤　竜馬	株式会社インフォマテックヨシヤ
	中西　昇	株式会社環境科学コーポレーション
	下山　裕	株式会社不二ケミカル
	佐藤　留治	シバタ環境科学株式会社
	清水　則幸	財団法人群馬県健康づくり財団
	中野　恵子	関東電化産業株式会社
	篠原　和人	株式会社テルム

社団法人 群 馬 県 計 量 協 会
環 境 分 科 会 規 約

平成１７年５月

社団法人　群馬県計量協会　環境分科会規約

第1章　総　則

（名　称）

第1条　　本会は、社団法人　群馬県計量協会　環境分科会（略称　群環協）と称する。

（事務所）

第2条　　本会の事務所は、社団法人群馬県計量協会（以下、計量協会という。）内に置く。

（目　的）

第3条　　本会は、環境計量に関する技術の向上と会員相互の親睦協調に努め環境計量証明事業の健全な発展を図るとともに、社会及び自然環境の保全につくし、もって産業経済の発展及び文化の向上に寄与することを目的とする。

（事　業）

第4条　　本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 分析技術の交流及び向上
2. 環境計量に関する調査研究及び普及
3. 関係官公庁及び関連団体との連絡協調
4. その他本会の目的達成に必要な事項

（事業年度）

第5条　　本会の事業年度は毎年4月１日に始まり、翌年3月末日に終わる。

第2章　会　員

（会　員）

第6条　　本会の会員は、計量協会の会員であり、かつ群馬県内で環境計量証明事業又はこれに関わる営業所を有するものとする。

2.会員は、総会によって承認されたものとする。

（会　費）

第7条　　会員は計量協会で定めた会費を納めなければならない。

（加入、退会）

第8条　　会員になろうとするもの、退会しようとする会員は、計量協会定款に定めるところに従う。

（除　名）

第9条　　会員が会費の納入を怠った場合、又は本会の事業遂行に支障のある行為をした場合、計量協会の定めるところに従い除名することができる。

第3章　役員、理事等

（役　員）

第10条　　本会に次の役員を置くものとする。

会　長　　1名　（計量協会理事を兼ねる。）

副会長　　1名

理　事　　10名以内（内1名を社団法人日本環境測定分析協会（以下、日環協という。））の担当理事とする。

監　事　　2名

2.本会に理事会の承認を得て、名誉会長及び顧問を置くことができる。

（選　任）

第11条　　役員は総会において選任し、その任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2.役員の補欠は理事会に置いて選任することができ、その選任された役員の任期は前任者の残任期間とし、次回の総会において承認を得るものとする。

3.役員は任期が満了しても後任者の就任するまでその職務を行うものとする。

（職　務）

第12条　　会長は本会を代表し、会務を総理する。

2.名誉会長は協会の最高顧問として、会長の諮問に応ずる。
3.副会長は会長を補佐し、会長が事故又は欠員のときは、その職務を代行する。
4.日環協担当理事は、日環協の会員であるものとし、日環協と本会との連携を円滑に図るものとする。
5.理事は理事会を構成し、会務の運営にあたる。
6.監事は会務及び資産の状況を監査する。

第4章　会議、委員会等

（会　議）

第13条　会議は、通常総会、臨時総会及び理事会の 3 種とする。

（総　会）

第14条　通常総会は、毎年 1 回事業年度終了後2ヶ月以内に会長が召集する。
2.臨時総会は、会長が必要と定めた時又は会員の5分の1以上から会議目的を示し、請求のあった場合に会長が召集する。
3.総会の議長は会長とする。会長が事故ある場合は副会長が代わる。

（理事会）

第15条　理事会は会長、副会長及び理事をもって組織する。
2.理事会は、会長が必要と認めた場合又は理事の3分の1以上から会議目的を示し、請求のあった場合に会長が召集する。
3.理事会は、総会に附する議案及び規約に定められた事項並びに理事会に委された事項を審議する。
4.理事会の議長は会長とする。

（委員会）

第16条　本会には、次の委員会を設置し、本会の具体的な施策、対策を講じる。
総務企画委員会は、本会事業活動に関わる総合的事項の企画立案を行う。
2.技術委員会は、分析技術の向上等技術的事項の企画立案を行う。
3.浄化槽委員会は、浄化槽に関する事項の企画立案を行う。
4.該当年度に必要とされる臨時的な委員会
5.委員会の構成員は理事会の承認を得て、会長が選任する。

（招　集）

第17条　会議を招集するには、少なくとも総会については、開催日の 20 日前までに、理事会については 10 日前までに、各委員会については 10 日前までに、付議事項日時及び場所を記載した書面をもって通知しなければならない。但し緊急の場合にはこの限りではない。

（付議事項）

第18条　次の事項は、総会の議決を経なければならない。
1. 規約の変更
2. 予算、決算
3. 事業の計画及び報告
4. 役員の選任
5. その他理事会で必要と認めた事項

（議　決）

第19条　会議の議事はそれぞれ構成員の2分の1以上出席し、出席者の過半数で決し可否同数の場合は議長が決する。

（議事録）

第20条　会議においては議事録を作成し、事務局へ提出し保管する。

第5章　事務局

（設置）

第21条　本会の事務を処理するため、事務局を設置する。
2.事務局は計量協会の専務理事及び職員があたる。

第6章　　補 足

（委 任）

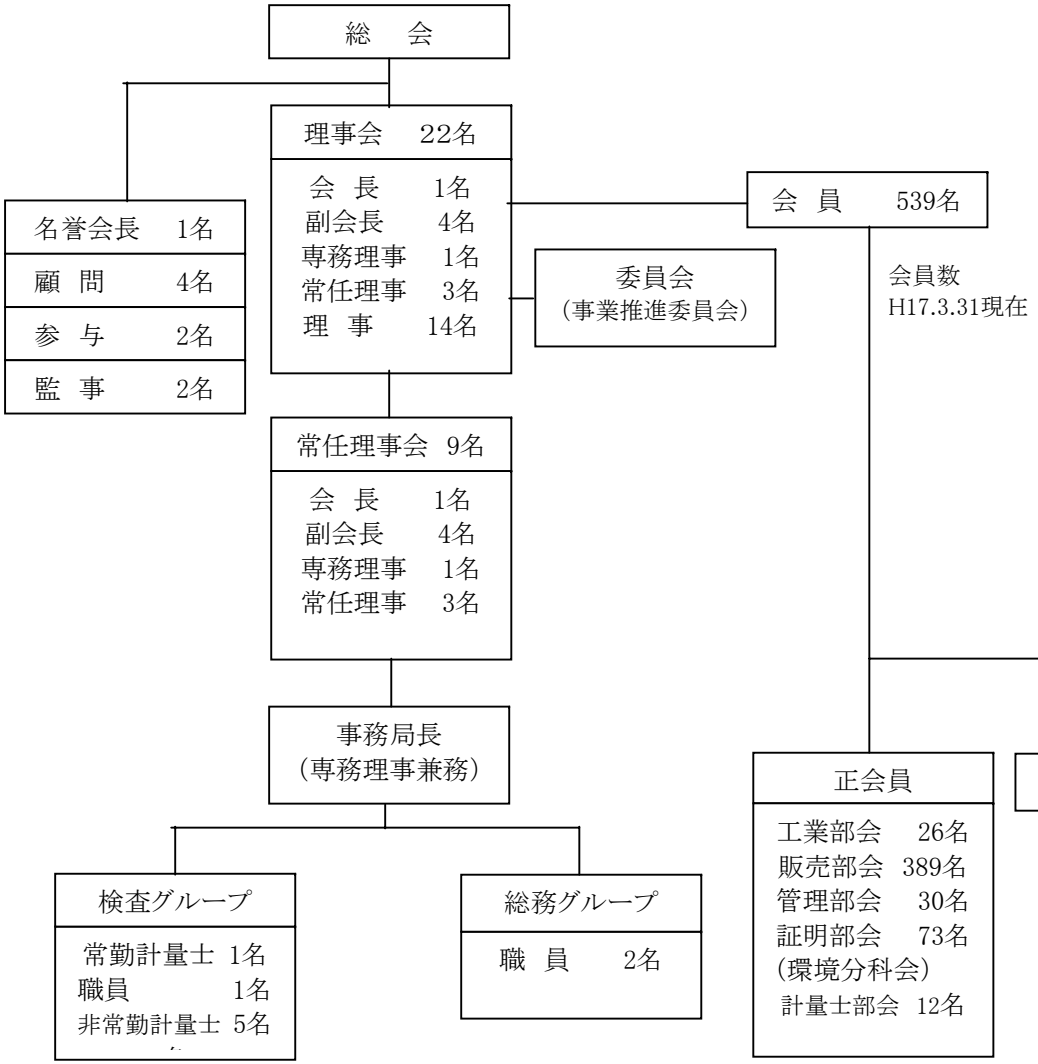
第22条　この規約に定めるもののほか本会の運営に関し必要な事項については理事会の承認を得て会長が別に定める。

附　則

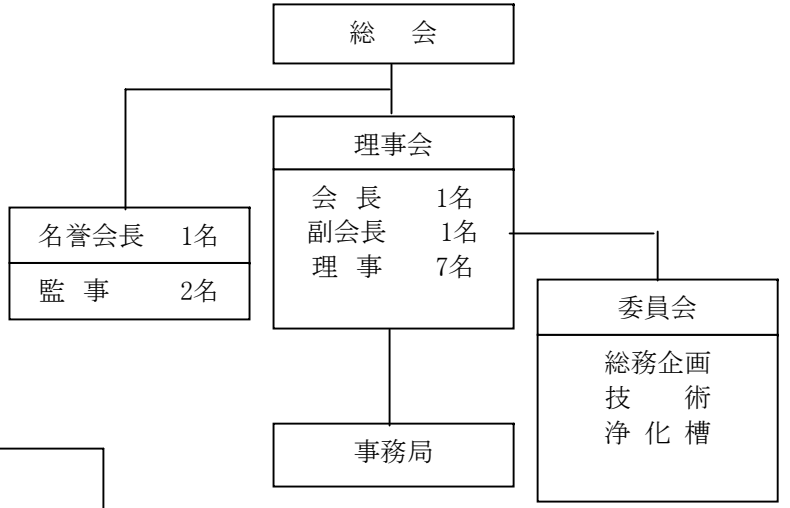
1．この規約は、社団法人群馬県計量協会定款を尊重し抵触しないよう定める。

2．この規約は、平成 17 年 5 月 27 日より施行する。

社団法人群馬県計量協会組織図



環境分科会組織図



(社)群馬県計量協会　環境分科会表彰規程

(目的)
第1条　この規程は、環境計量証明事業に従事し、他の模範となるべき功績のあった会員又はその従業員若しくは事業所に対し表彰を行う場合について定める。

(表彰の方法)
第2条　　表彰は、会長名をもって表彰状又は感謝状を贈り、記念品を副える。

(表彰の時期)
第3条　表彰は、毎年原則として年度当初の通常総会において行う。
なお、その年度に該当者がいないときは、表彰を行わない。

(選考の基準)
第4条　表彰選考の基準は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
1　環境分科会(以下、本会という。)構成員の経営者として、その経歴が4年以上あり、本会事業の運営・発展に寄与したと認められる者。
2　本会の役員等の職務経験が5年相当以上あり、本会発展に寄与したと認められる者。
3　環境計量証明事業に熱意を有し、その成果が特に顕著と認められる事業所。
4　本会会員の企業に従事する者で、当該企業に10年以上勤務し、環境計量測定技術等が卓越し計量証明事業の発展に寄与したと認められる者。
5　前各号にかかわらず、環境計量業務の発展に関し、特に著しい功績があったと会長が認めるもの。

(被表彰者の選考及び決定)
第5条　表彰を受ける者は、本会構成員各社等から別紙推薦書の様式により推薦された者の中より、理事会で選考を経て会長が決定する。

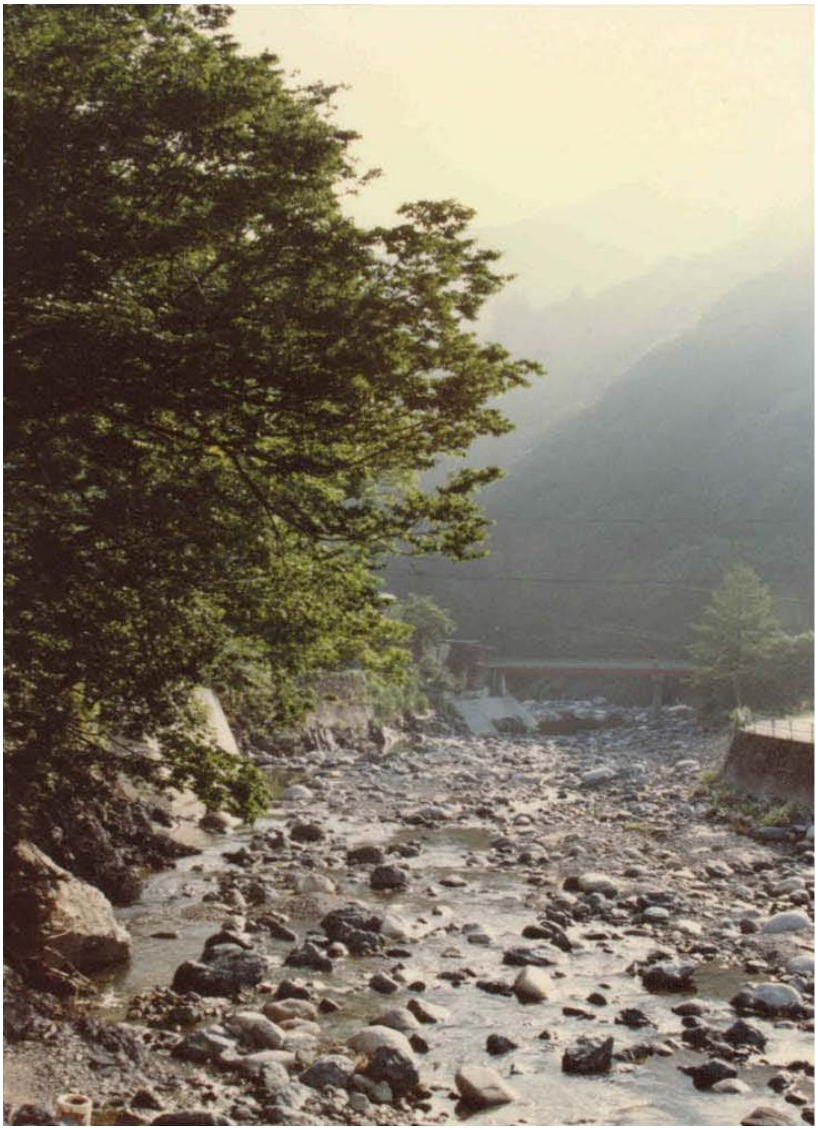
(内申)
第6条　特に功労のあった者について、(社)群馬県計量協会及び群馬県知事等の感謝状又は表彰状を受けられるよう内申することができる。

(制限)
第7条　表彰は同一人については、1回に限るものとする。

(その他)
第8条　この規程を実施するため必要な事項については別に定める。

附則
1. この規程は、平成17年9月7日から施行する。

会員名簿



計 量 証 明 事 業 者 名 簿 (環 境)

平成18年3月

事業所名	所在地	区分	TEL FAX
㈱インフォマテックヨシヤ	桐生市相生町3－800－28	1 ・ 2 ・ 3	0277-52-8888 -52-8894
㈱環境科学ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 関東事業所	藤岡市浄法寺456	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	0274-52-2727 -52-5355
㈱環境技研	高崎市金古町1709－1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	027-372-5111 -372-5001
㈱群馬分析センター	高崎市並榎町637－2	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	027-326-7805 -325-8842
	多野郡吉井町矢田葉官道701－1		027-386-0655 -386-0657
瑞晃化学㈱	高崎市倉賀野町1201	1	027-346-8262 -346-8260
㈱不二ケミカル	桐生市相生町2－835	1	0277-52-0889 -52-0891
三洋電機㈱事業開発本部 環境ﾘｻｰﾁｾﾝﾀｰ東部	邑楽郡大泉町坂田1－1－1	1 ・ 2 ・ 3	0276-61-9177 -61-8871
シバタ環境科学㈱	富岡市下黒岩581－1	1 ・ 2 ・ 3	0274-62-4008 -62-2895
パリノ・サーヴェイ㈱	藤岡市岡之郷字戸崎559－3	1	0274-42-8129 -42-7950
(財)群馬県健康づくり財団 検査事業部	前橋市堀之下町16－1	1	027-269-7815 -269-7805
関東電化産業㈱	渋川市渋川1387－1	1	0279-25-0771 -23-2231
㈱総合環境分析 北関東支社	邑楽郡邑楽町中野127－6	1	0276-89-0745 -89-1415
(社)群馬県薬剤師会 環境衛生試験センター	前橋市西片貝町5－18－36	1	027-223-6355 -243-2967
㈱ヤマト 大和分析センター	前橋市古市町118	1	027-290-1865 -290-1897
㈱テルム 北関東分析センター	太田市西新町14－7	1	0276-32-3522 -32-3503
㈲アライ計量事務所	みどり市大間々町大間々1255－9	1	0277-72-3298 -72-4109
㈱環境分析センター	前橋市西善町179－4	1	027-267-0021 -267-0022
㈱環境アシスト	高崎市倉賀野町2947－1	1 ・ 2 ・ 3	027-346-6114 -346-6112
㈱エコ センター	吾妻郡東吾妻町大字岩井963－1	1 ・ 2	0279-68-5013 -68-5433
㈱ミツバ環境分析リサーチ	桐生市新里町野598	1 ・ 2 ・ 3	0277-74-5958 -74-5973
昭和環境分析センター㈱	館林市堀工町1884－28	1	0276-75-5500 -73-3499
㈲吾妻分析センター	吾妻郡長野原町大字羽根尾501－1	1	0279-82-2921 -82-2921
㈱本庄分析センター 藤岡事業所	藤岡市藤岡439－4	1	0274-24-5832 0495-21-8630
㈱環境評価機構 分析センター	安中市郷原2996－2	1	027-380-2577 -380-2578
プロファ設計㈱ 環境研究所	伊勢崎市下触町629－1	1	0270-62-2111 -62-2112

(注)区分欄　　1＝濃度　　2＝音圧　　3＝振動　　4＝特定濃度(ﾀﾞｲｵｷｼﾝ類)　の証明ができます。

資　　料

技術委員会成果品　一覧

成果品は別途、CD-ROM に収録（PDF ファイル）

1. 昭和 62 年度 「浄化槽法流水のBOD測定作業標準」
2. 昭和 63 年度 「定量下限値と有効数字に関する実態調査」
3. 〃 「定量下限値と有効数字の統一表記」
4. 平成元年度 「分析工数の検討」
5. 平成 2 年度 「分析工数表と分析料金の関連性」
6. 平成 3 年度 「基準値の調査とデータベース化について」
7. 平成 4 年度 「測定分析標準単価表の見直し」
8. 平成 5 年度 「新規追加環境基準項目の標準単価の検討」
9. 〃 「標準物質（重金属類）の統一化とトレーサビリティ」
10. 〃 「定量下限値と有効数字について」
11. 平成 6 年度 「パソコン通信の活用について」
12. 平成 7 年度 「分析機器の自動化システム開発の動向調査」
13. 平成 8 年度 「各種基準値の取りまとめ（ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ原案作成）」
14. 平成 9 年度 「機器点検マニュアルの作成」
15. 平成 10 年度 「ISO 14000 における環境分析の役割」
16. 平成 11 年度 「定量下限値の見直し」
17. 平成 12 年度 「内分泌撹乱物質（環境ﾎﾙﾓﾝ類）に関する資料収集」
18. 平成 13 年度 「クロスチェック-水中の重金属類」
19. 平成 14 年度 「土壌汚染対策法について」
20. 平成 15 年度 「クロスチェック-土壌の含有試験」
21. 平成 16 年度 「不確かさの求め方」

浄化槽委員会成果品　一覧

成果品は別途、CD-ROM に収録（PDF ファイル）

1. 昭和 62 年度 「浄化槽法流水のBOD測定作業標準」

あ と が き（編集後記）

30周年記念と聞いて、一番驚いたのは年月の流れの速さでした。この企画が取り上げられたのは、2001年で、まだまだ先のことと思っていたのですが･･･。

過去の資料の収集・整理を開始したのは、2年前でした。協会が片隅をお借りしていた計量検定所が、1988年に県庁所在の前橋市大手町一丁目から現在の下大島町に移転した折に、かなり整理されていました。当時を知る会員の皆様から、丁重に保管されていた資料を借用し、どうにか収集することができました。年代順に整理した資料を、じっくり眺めますと、当時のことが思い出され、懐かしさの余り、作業の手を止め昔話になってしまったこともありました。当時は、皆若く、先輩諸氏にずいぶん生意気なことを言っていたことなどが思い出され、先人の方々のご苦労も垣間見ることができました。

どうにか、「協会の歩み」を残すことができたものと、委員一同ほっとしています。今後、同様な編纂をして頂くことを期待し、そのベースになれば幸いと思います。

なお、本誌の内容につきましては、一同限られた時間により編集等を行ったため、記載内容の省略、一部不明など未熟な点が多いことをご了承お願いいたします。

2006年4月吉日





30周年記念誌-編集委員メンバー

委員長	星　正敏	（株式会社環境技研）
委　員	佐藤　竜馬	（株式会社インフォマテックヨシヤ）
	佐藤　修	（株式会社群馬分析センター）
	清水　則幸	（財団法人群馬県健康づくり財団）
	新井　宗雄	（瑞晃化学株式会社）
	中野　恵子	（関東電化産業株式会社）
	中西　昇	（株式会社環境科学コーポレーション）
	浅川　千佳夫	（株式会社群馬分析センター）
	松岡　小十郎	（社団法人群馬県計量協会前専務理事）
	笹尾　利昭	（社団法人群馬県計量協会専務理事）

本文中の写真提供は、(株)不二ケミカル　下山親一氏、関東電化産業(株)　小林生二氏、(社)群馬県計量協会による

分析器械・計量計測器を通じて
人と人とのつながりを大切にする

Humantec Union

日立・堀場理化学器械特約店
株式会社 ユニオン

〒370－0862　群馬県高崎市片岡町３丁目2－11
TEL 027－323－1234㈹　FAX 027－323－6809
営業所　宇都宮・熊谷・太田

信頼の製品をより迅速に

営業品目／理化学機器・電子計測器
半導体機器・バイオ機器

理工 大木理工機材株式会社

〒370-0874 群馬県高崎市中豊岡町86　TEL 027-323-4400　FAX 027-326-6336

分析機器の綜合商社　⊕島津製作所代理店

株式会社 新井商会

〒370 群馬県高崎市貝沢町622番地
TEL.0273－62－5551㈹
FAX.0273－62－3270

新時代を創造する
三益のトータルテクノロジー

半導体事業部　産商事業部　エンジニアリング事業部

Mimasu 三益半導体工業株式会社

本社　〒370-3531　群馬県群馬郡群馬町足門７６２番地

バイオ．分析．半導体．省力．試験．測定(機器)

株式会社 アイサイエンス

〒370-2332 群馬県富岡市下高瀬204の2
TEL 0274 (63) 7809
FAX 0274 (64) 4170

医薬品総合商社
ISO9001:2000認証取得

A&D

安藤株式会社

代表取締役社長 安藤 震太郎

本 社: 〒370-0071 高崎市小八木町309 TEL(027)362-1110(代表)
太田支店: 〒373-0821 太田市下浜田町474-1 TEL(0276)45-1515(代表)

分析・理化学機器総合商社

株式会社 ラボ・システムズ

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町140-3
TEL 027－252－2182
FAX 027－280－4048
E-Mail:labosys@green.ocn.ne.jp

「知識と技術と発想」をモットーに！

有限会社 共愛テクノサイエンス

〒370-0073 群馬県高崎市緑町1丁目11番地11
TEL (027) 363-8777 FAX (027) 363-8897
E-Mail : info@kyouai.co.jp
環境分析用試薬・標準物質・分析機器・設備等各種取扱い

試薬・工業薬品　を販売する　**地元の商社**　です。

株式会社　タケショウ

産業廃棄物収集運搬業許可　許可番号　1000099765　廃油・廃酸・廃アルカリ

本社　〒379-0135　群馬県安中市郷原 3008 番地 3
ＴＥＬ　027-385-5166　　ＦＡＸ　027-385-6886

試薬から分析機器までトータルサポート！

KOSHIN 高信化学株式会社

本　　社：〒370-0072 群馬県高崎市大八木町801　TEL:027-361-3221 FAX:027-361-4007
館 林 支 店：〒374-0055 群馬県館林市成島町928-12　TEL:0276-73-2311 FAX:0276-74-9377
東京営業所：〒106-0047 東京都港区南麻布2-13-21元村ビル2F　TEL:03-5444-8583 FAX:03-5444-8615
U　R　L：http://www.koshin-chem.co.jp

Your Business Success Solution!

化学工業薬品及び環境関連商品の販売

和光化学株式会社

本社　〒370-0006　群馬県高崎市問屋町3丁目2番地3
TEL　027-361-6161(代)　FAX　027-361-6167
上越営業所　〒942-0022　新潟県上越市下荒浜321番地
TEL　025-544-3103　　FAX　025-544-3820
ＵＲＬ：WWW.Wakou-kagaku.co.jp
E-mail：info@wakou-kagaku.co.jp

工業薬品小分製造･分析用試薬卸販売

株式会社　ミツワ化学

〒370-0868　群馬県高崎市鼻高町43-13
TEL;027-325-0925　FAX;027-325-0926
e-mail;ooo.chemistry@be.wakwak.com

ISO9001:2000

Maruichi 株式会社 まるいち
ビジネスサポート事業部

本　　部　〒370-2316　群馬県富岡市富岡1340
TEL 0274-63-1331 FAX 0120-133-363
藤岡営業所　〒375-0002　群馬県藤岡市立石字下川前174-1
TEL 0274-24-3902 FAX 0120-133-363
http://www.oamaruichi.co.jp/

営業のご案内

●システム機器・ネットワーク・サーバー構築ご提案
●ソフィトウエアの開発・アプリケーションソフトの販売
●パソコンその他周辺機器修理
●ＰＣＡ給与・会計・商魂・商管サポート認定店
●ＯＡ機器・オフィス家具・事務用品の販売
●コピー・名刺・データ出力・拡大プリント等のサービス
●緑茶の栽培・製造・販売（静岡本山茶：山出し茶 木兵衛）

天びん、はかりの
最新情報
お届けします。



社会のさまざまなニーズに、高度なテクノロジーで対応する

○試験検査機器　○精密検査機器　○工業計測器　○分析機器　○産業用機器　○データ処理機器

群栄産業株式会社

代表取締役社長　小柴勘治

本　社　〒372-0022 群馬県伊勢崎市日乃出町76番地
TEL 0270(26)6611(代)　FAX 0270(26)6691
E-mail:guneisg@sunfield.ne.jp

ー新刊案内ー

（社）群馬県計量協会発行

環境保全ハンドブック（平成17年度版）

ー群馬県環境・森林局環境保全課　監修ー　Ａ６判変形（145mm×90mm）約420頁
頒価1,800円（消費税込み）、送料別

平成10年３月、環境に係わる基準、規制等をとりまとめた「環境保全ハンドブック」を発行し、その後、平成13年３月に再販しました。それから３年が経過し、群馬県環境・森林局環境保全課の監修をいただき、平成17年度版は、法令や通知等を最新なものに改訂するとともに、内容も一層充実して収録されていますので是非ご利用ください。

※申込・問い合わせ先　社団法人群馬県計量協会
〒379-2152　前橋市下大島町81-13（県計量検定所内）
tel　027-263-8217　fax　027-261-9317

30周年記念誌

平成18年4月発行

編集　社団法人群馬県計量協会環境分科会

創立30周年記念誌・編集委員

発行　社団法人群馬県計量協会環境分科会

〒379-2152　前橋市下大島町 81-13

TEL　027-263-8217　　Fax　027-261-9317

E メール　gunkeikyo@dan.wind.ne.jp

印刷　山岸印刷所

